

三重県プレスクールマニュアル



プレスクールとは

外国につながる子どもたちが小学校に入学する前に、
日本の学校文化や勉強について知り、
準備をする教室です。

令和2（2020）年2月
プレスクール実施マニュアル等作成会議



はじめに

平成 30 年 5 月現在、県内の公立小中学校・県立学校における日本語指導が必要な児童生徒は 2,653 人（外国籍 2,300 人、日本国籍 353 人）となっており、全国で 7 番目に多くなっています。また、公立小中学校の日本語指導が必要な外国人児童生徒数を、公立小中学校の在籍児童数で除した「在籍率」は 1.44% で、全国 1 位となっています。

こうした背景には、外国につながる子どもの、特に幼少期の家庭における言語生活や教育事情が深く関係していると考えられており、子どもたちにいち早く学習のための日本語を意識させるとともに、保護者には家庭学習の重要性を伝える必要があります。

プレスクール（就学前支援教室）は、これらを就学直前の機会を利用して行うものです。あわせて、日本の学校生活や教育制度に関する情報を提供し、子どもや保護者の情報不足から来る誤解や戸惑いを解消します。

また、小学校への入学を呼びかけ、子どもの不就学を回避するとともに、受け入れる学校にとっては子どもの実態を早期に把握することも可能になります。

このマニュアルでは、外国につながる子どもの教育・保育、支援に携わる小学校、幼稚園、保育所、行政の各関係者、各種団体、ボランティア等の皆さまに、プレスクールに早期に取り組んでいただけるよう、その意義や実施する際のポイントを Q & A 方式で分かりやすく解説するとともに、募集案内チラシや教材などすぐに使える準備物を取りまとめました。

外国につながる子どもたちが健やかに成長できますよう、ぜひ、このマニュアルを活用してプレスクールに取り組んでいただきたいと思います。

なお、皆さまから本マニュアルに関するご意見をいただけましたら、さらなる検証を加え、より充実したマニュアルとなるよう取り組んでまいります。

本マニュアルの作成にあたっては、愛知県「プレスクール実施マニュアル」(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/0000028953.html>) を大いに参考とさせていただきます。関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

令和 2 年（2020）年 2 月

三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課

こんにちは！ みえこです。
これから一緒にプレスクールを始めましょう！



プレスクール 3つのよいこと

子ども

学校に行くことが
楽しみになる

保護者

入学のために必要な
情報と安心が得られる

学校

より良い支援体制を
準備できる



目次

1. みえこさんが答える！プレスクールQ&A	1
2. 企画から実施まで	2
3. 指導の留意点	8
4. カリキュラムの立て方	10
5. モデル教案（略案）について	14
6. プレスクール案内書例	36
7. プレスクール参加申込書例	37
8. 教材集	39
9. 保護者の方へ	66
10. 主な参考資料	68

1. みえこさんが答える！ プレスクール Q&A

Q プレスクールって何？



A プレスクールは、外国につながる親子が学校生活にスムーズに入っていくための準備をするところだよ。

外国につながる親子の多くは、日本の学校について知る機会が少ないんだ。だから、入学前に日本の学校をちょっと体験して、安心して学校に行けるようにするんだよ！



Q 日本生まれで、日本語も話せる子どもなら大丈夫じゃない？
日本の幼稚園や保育所、認定こども園に行っている子どもにも必要なの？



A 必要だよ！ 日本の幼稚園や保育所、認定こども園に行っても、小学校の教室で使われる言葉は少し違うよ。プレススクールに来ると、先生が話す言葉などもわかるようになるから、学校生活が楽しくなるよ！

保護者の方に日本の学校生活や文化、制度を知ってもらうことも大切だよ。幼稚園や保育所、認定こども園と違って、家庭での学習や準備がとても多いからね。プレススクールに来ると、スタッフにわからないことを質問できたり、他の親子と知り合ったりすることもできて、小学校生活の不安が少なくなるよ。



子どもだけでなく、保護者にとっても大切なんだね！ プレスクールがあると、外国につながる親子も笑顔で入学式を迎えられるね！



2. 企画から実施まで

プレスクールの対象者は

「小学校に入学前の、外国につながる子どもたち」です。

- たとえば
- ・日本の幼稚園、保育所、認定こども園に通っている子ども
 - ・外国人向け託児所に通っている子ども
 - ・不就園の子ども

子どもたちの背景はさまざまです。

最初に、子どもと地域の現状を把握しましょう。



<企画の流れ フローチャート>

実施主体を
決める

- 実施主体を決めます（例：市町の教育委員会、多文化共生担当課、幼稚園や保育所、認定こども園の担当課、地域のNPO団体等）。
- 関係者（学校関係者、日本語教育関係者、教育委員会や学校、自治体）に連絡をとり、運営に必要な協力を得ます。

実施の準備
をする

- 運営に必要な人材と役割を決めます。コーディネーター、子どもの指導者、母語スタッフが揃っているとよいでしょう(p.3参照)。
- 開催期間を決めます。対象者と運営側の両方が無理なく参加できる期間で実施しましょう。
- 開催場所を決めます。参加者が集中できる環境であること、また、参加者だけではなく指導者やスタッフの移動や時間も考え、無理のない場所で行いましょう。
- 情報収集を行い、カリキュラムの決定、実施場所の確保、備品の準備をします。

周知する

- 周知の方法と時期を決めます。不就園の子どももいます。外国人コミュニティや外国人住民の支援団体にも協力してもらいましょう。
- 周知する際には、国籍や在留資格への配慮、多様な文化的背景への配慮が必要です。

<運営スタッフと役割>

【実施主体】

- ・運営スタッフおよび他機関との連携、調整を行います。
- ・事前に小学校に関する情報および教育支援制度に関する情報を整理しておきます。
- ・外部からの問い合わせへの対応、参加する子どもに関する個人情報の管理・保護、緊急時の対応も随時行います。
- ・プレスクール終了後には、活動の総括を行い、評価します。日本語指導については、総括の際に外部から日本語教育の専門家等を招き、評価してもらうことが望ましいです。

【コーディネーター】

プレスクールの運営全般の連絡、調整を行います。運営側のカリキュラムとマニュアルに関する共通理解の形成のための調整が必須です。

【指導者】

子どもの指導をメインに行います。学校現場を知っている人がよいです。また、日本語指導に関する基本的な知識があることが望ましいです。指導時は必ず日本語のみで話し、他の言語が必要な場合は、母語スタッフが話すなど言語の役割分担を明確にしましょう。

【母語スタッフ】

おもに保護者をサポートします。プレスクール開催期間中だけでなく、事前の問い合わせ、書類を書く時の手助け、開催の周知、受付にも関わります。また、子どもの様子で気になる点をコーディネーターや指導者に伝えます。

①授業づくり、②教材づくり、③情報の共有

連携

連携先・協力先例	
行政（市町）	外国籍住民、小学校入学年齢に相当する子どもの人数、近隣の幼稚園、保育所の就園状況を把握しています。
幼稚園、保育所、認定こども園	就園園児についての情報・状況を把握しています。
小学校、教育委員会	次年度入学する子どもの情報・状況を把握しています。また、支援制度等について把握しています。
学童保育等の団体	留守家庭の児童を受け入れる施設です。
外国人向け託児所	外国につながる子どもが在籍しています。
外国人コミュニティ	来日したばかりの子どもや不就園の子ども情報が手に入りやすいです。
外国人支援団体	
外国人雇用企業	子どもの保護者が勤務する企業にも協力を得るとよいでしょう。

<実施準備 チェックリスト>

	内容	参照ページ
<input type="checkbox"/>	開催期間が決まっている。	p.2「実施の準備をする」
<input type="checkbox"/>	運営スタッフの人数と役割が決まっている。	p.2-3
<input type="checkbox"/>	だれが・いつ・どのように・どうやって・どんな情報を集め、 どうやってまとめるかが整理され、役割分担されている。	p.3
<input type="checkbox"/>	運営に十分な情報が集められている。	p.3-4
<input type="checkbox"/>	適切な実施場所が決まっている。	p.4「(1)実施場所の決め方」
<input type="checkbox"/>	備品が漏れなく準備できている。	p.4「(2)準備するものの例」
<input type="checkbox"/>	どこに周知するか（連携先・協力先）や募集の方法が決まっ ている。	p.2-3
<input type="checkbox"/>	関係各所への周知と募集の方法、日程が決まっている。	p.2「周知する」
<input type="checkbox"/>	関係各所への案内が漏れなく行われている。	p.3「連携先・協力先例」

<実施のポイント>

(1) 実施場所の決め方

適切な実施場所を選ぶ際は、①通いやすい場所か、②期間中継続して同じ一つの場所が使用できるか、③参加者・運営スタッフの会場までの移動時間に無理がないかを考慮に入れなければなりません。例えば、幼稚園、保育所、認定こども園、外国人向け託児所、公共施設（公民館、公営住宅の集会所など）、小学校等が使われています。

(2) 準備するものの例

必要な教材、教具、備品は、実施主体があらかじめ準備しておきます。次のようなものを準備しておくといいでしょう。カリキュラムが実施できる教材、教具、子どもに適切なサイズの机、いす、パソコン、プリンター、電話、FAX、文房具、教材、書籍、音声再生用プレイヤー、ホワイトボード、ファイル、連絡帳、案内書（募集資料）等

(3) 以下についても、役割分担や対応を事前にしっかり決めておきましょう。

- ・ 不測の事態への対応
- ・ 緊急時の保護者への連絡方法
- ・ 個人情報の管理
- ・ 通学路、教室内での事故に対する保障
- ・ 就学援助の手続きや支援制度に関する制度的な情報の収集と整理…申請の方法、申請期限は必ず把握しておきます。

<ワークシート：プレスクールを始めよう！>

「2. 企画から実施まで」(p.2-4)の内容を元に、プレスクールを始めましょう。実施のために必要な情報を以下の空欄に記入してください。記入例は、次ページ以降(p.6-7)を参考にしてください。

★実施主体：

対象となる子ども	
開催期間	
開催場所	
運営スタッフ	コーディネーター： 指導者： 母語スタッフ：
備品の準備	
連携先・協力先	

★スケジュール

時期	
月	
月	
月	
月	
月	

<例： 松阪市 就学前支援教室「ふたば」の場合>

★実施主体：松阪市教育委員会

対象となる子ども	松阪市内在住の外国につながる小学校入学予定児
開催期間	1月から3月までの土曜日 10:00 から 11:30 まで 計 11 回
開催場所	松阪市子ども支援研究センター
運営スタッフ	松阪市教育委員会 指導主事 1～2人 コーディネーター 1人 日本語指導員 3人（常時 2人） ふたば参加者の母語に対応した母語スタッフ ふたばボランティア（1～2人）
備品の準備	費用は松阪市が負担 教材の準備や教具の製作はコーディネーターと指導員が行う
連絡先・協力先	市内の幼稚園、保育所、認定こども園、小学校

★スケジュール

時期	
8月下旬	松阪市に住所を置く、次年度小学校入学対象の外国籍の子どもがいる家庭へプレスクールの案内、参加申込書を送付する。
9月上旬	保育園長会、幼稚園長会にて、プレスクールの目的や内容を伝え、園からも対象となる園児の保護者へプレスクールについて周知していただくよう依頼する。 対象となる子どもが入学する小学校へ、プレスクール案内、参加申込書を送付し、就学時検診等で対象となる子どもの保護者に知らせていただくようお願いする。

9月～11月	<p>【参加者について調査をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前の表記、読み方、園での呼び名 ・国籍、母語、来日時期、在園期間、日本語の習得状況 ・生活面（集団生活での様子、気になること、配慮すること） ・「ふたば」教室までの送迎についての確認(必要があれば母語スタッフが直接連絡する。) <p>※在園していない子どもたちに関しては、母語スタッフを通じて保護者に電話連絡をし、可能な範囲で確認をする。</p>
12月	入級準備・教材や教具の準備確認
1月～3月	実施

運営スタッフの役割と準備

<コーディネーター>

【準備】・就学前支援教室「ふたば」についての保護者向けの案内

- ・入級前の子どもについての聞き取り調査
- ・カリキュラムと指導案の作成

【教室での役割】・保護者向け説明会の実施

<指導員>

【準備】・指導案の確認とコーディネーターとの打ち合わせ

- ・教具作り

【教室での役割】・子どもへの指導

<母語スタッフ>

【準備】・就学前支援教室「ふたば」について、保護者向けの案内をする際の通訳

(必要に応じて)

- ・子どもについての聞き取り調査の通訳

【教室での役割】・保護者向け説明会や保護者への案内時の通訳

- ・子どもへの通訳は子どもの日本語レベルに応じて行う

3. 指導の留意点

Q 指導者は、どんなことに一番気をつけたらいいのかな？



A 子どもがたくさん話すように授業を進めることが大切！
指導者が一方的に話す時間を減らすことがポイントだよ。

Q 子どもが指導中に飽きないようにするには、どうすればいいのかな？



A レアリア（実物）をたくさん使って、「体験できる」活動をたくさん
行うといいよ。
あと、同じ活動を長くしないことも大切ね。10分くらいが目安よ。

Q 教え方のコツってあるの？



A 「やさしい日本語」でのコミュニケーションを心がけてね。
(p.9 参照)

Q ジェスチャーなどで気をつけるものって、あるのかな？



A それぞれの国の文化や慣習によって、気をつけるジェスチャーが違
うよ。
たとえば首を横に振る動作は、日本では「いいえ」を意味するけ
ど、インドなどでは「はい」「わかりました」の意味になるよ。
あらかじめ調べておくことが大切ね。(p.9 参照)

やさしい日本語のコツ

(1) 1つの文を短く言う。

<例> 昨日言ったように、今週の土曜日、雨が降ったら、運動会は中止になるから…。

⇒ 昨日、みなさんに言いました。もう一度言います。

今週の土曜日、雨のときは、運動会はありません。

(2) はっきり最後まで言う（省略しない・曖昧な表現は避ける）。

<例> そんなことしたら、危ないと思わない？

⇒ 危ないです。やめてください。

(3) できるだけ「です・ます」を使う。

<例> 体育の授業は、体操服がいるもんで着替えやなあかんのさ。

⇒ 体育の授業は、体操服を着ます。

(4) オノマトペ（擬音語・擬態語）は使わない。

<例> 雨がザーザー降りになってきたから、サッと中へ入りましょう。

⇒ 雨がたくさん降ってきました。すぐに中へ入りましょう。

(5) 敬語は使わない。

<例> 本日は、こちらにご参加をいただき、心より御礼申し上げます。

⇒ 今日はここに来てくれて、ありがとうございます。

気をつけるべきジェスチャーの例

(1) 頭をなでて、褒める。

⇒ タイ・スリランカなどの仏教の国では、頭をなでるのは失礼にあたります。

(2) 「お金」の意味として、人差し指と親指で輪を作る。

⇒ 中南米では、「タブー」とされています。

(3) 首を横に振る

⇒ スリランカ、バングラデシュ、インドでは、「はい」「わかります」の意味です。

◇子どもがつながりを持つ国の文化や慣習について、あらかじめ調べておきましょう。

4. カリキュラムの立て方

(1) カリキュラムに必要な情報を収集する

カリキュラムを立てるにあたり、以下の方法で情報を集めることが考えられます。

A.保護者への調査票配布や聞き取り (p.38-39)

B.幼稚園、保育園、認定こども園、その他託児所等からの聞き取り

C.子どもへの語彙調査(「プレスクール実施マニュアル」(2009), 愛知県, p.30)

特に、「子どもの母語と日本語の能力」と「日本での生活や文化に対する適応度」はカリキュラムでどんな内容をどれくらい扱うか考えるために重要です。

例えば、来日間もない子どもや、日本の幼稚園や保育園、認定こども園に行っていない子どもの場合、他の子どもと集団で活動することや、学校生活で必要となる、箸やトイレなどの使い方に慣れることが重要かもしれません。一方、上記の園等に通っていて、日本語もある程度話せる子どもの場合は、学校生活の具体的なルールを覚えたり、文字の読み書きをしたりすることを中心に、カリキュラムを立てることも考えられます。また、個別に特別な支援が必要であると思われる場合は、早めに適切な専門機関へつなぎ、どのような対応が望ましいか、専門家や保護者と話し合うことが大切です。

(2) プレスクールの目的を決める

参加する子どもたちの状況を把握できたら、まず、そのプレスクールで目指すことを決め、運営スタッフ全体でしっかり共有することが大切です。また、毎回の授業の後に、目的に合った活動ができたかどうか、という視点でふりかえりましょう。

例えば、「外国につながる親子が安心して学校に行けるようになる」という目的であるなら、その日の活動で「親子は安心できたでしょうか？」と見直してみましょう。ひらがなや数字の練習に時間が長くかかりすぎて、「安心してもらう」ための活動がおろそかになっていなかったでしょうか？ 保護者への説明が一方向的だったり、わかりにくい話し方になっていたりしなかったでしょうか？ 活動内容が適切だったかどうかは、目的に立ち返ることで見えてきます。

(3) カリキュラムの構成

目的に合わせて、日本語や学校生活に関する項目などについて、何をどのくらい指導するか考えます。例えば、日本語なら「ひらがな 50 音の読み」「あいさつ」「自己紹介」など、学校生活に関する指導なら「学校に持っていく物」「給食」「学校への行き方」など、子どもたちに合わせて、取り上げる項目を選びます。それらを、プレスクー

ルの回数に合わせて、配分していきます。なお、1回の授業には、以下の3パターンの活動が組み合わされていることが多いです。

- A. 毎回繰り返し行うもの ※授業の初めや最後に行う
例：あいさつ、宿題の説明やチェック
- B. 毎回または定期的に行うもの
例：歌、色、数字、図形、読み聞かせ（※できるだけ多言語で行う）
- C. 学校生活に関する活動 ※毎回異なるテーマで行う

(4) カリキュラム作成の際の留意点

(1) でも述べたように、参加する子どもの状況や、人数、国籍等によって、限られた期間でできること、取り上げなければならないことは変わります。そのため、一度作成したカリキュラムは、毎年見直す必要があります。

また、毎回の授業で少しずつ様々な活動ができるように、全体のカリキュラムを構成し、子どもたちが常に集中できるように、活動の区切りは10分程度にするように工夫しましょう。

(5) カリキュラムの例

本マニュアルでは、「外国につながる親子が安心して、笑顔で入学式を迎えることができる」ようになることを目的として、学校生活を体験できる活動を中心とした計10回の授業を想定し、以下のモデルカリキュラムを作成しました。

ユニット1から10まで、活動内容や指導する言葉の難易度、および学校生活での重要度を基準に構成しています。ただし、必ずこの順番ですべてのユニットを実施しなければいけないという意味ではありません。プレスクールの対象者、期間や回数など、必要なユニットを選択して使えるように、モジュール型カリキュラムとしました。

	タイトル	到達目標	覚える言葉や表現
ユニット1	友達になろう	①あいさつができる ②先生の指示を聞いて、学校生活で必要となる基本的な行動ができる ③自分の名前が読める 自分の名前を聞かれて、答えることができる ④簡単な応答ができる	①おはようございます／こんにちは／こんばんは／さようなら ②立ちましょう／座りましょう／手を挙げましょう／書きましょう／読みましょう／やめましょう ③（わたしは／ぼくは） <u>自分の名前</u> です。 ④はい／いいえ／わかりません

ユニット2	いろいろ書いて/ 描いてみよう	①基本的な筆記用具の名前 がわかる ②鉛筆を正しく持つことが できる 鉛筆で書いたり、消しゴ ムで消したりすることが できる ③いろいろな文房具の名前 がわかる ④いろいろな文房具を正し く使える	①筆箱/鉛筆/消しゴム/ノート /下敷き/定規 ②書きます/消します ③のり/色鉛筆(クレヨン、クー ピー等)/はさみ/鉛筆削り
ユニット3	学校へ行こう 【持ち物編】	①ランドセルについて知る ②学校に持って行く物の名 前がわかる ③学校に持って行ってはい けない物がわかり、学校 へ行く準備ができる	①(学校へ)行きます/ランドセル ②(~に)入れます/帽子/上靴/ 上靴の袋/水筒/教科書/ノー ト/筆箱/ハンカチ/ティシュ ③いい/だめ
ユニット4	学校へ行こう 【交通ルール編】	①自分が通う学校がわかる ②信号の意味がわかる ③横断歩道の渡り方がわか る	① _____ 小学校(通学予定の 学校名)/ (~へ) 行きます ②信号/赤/青/黄色/(横断歩 道を)渡ります/止まります/ 危ない ③右/左/見ます
ユニット5	学校を探検しよう	①学校の中の場所の名前が わかる ②トイレの使い方がわかる	①教室/保健室/図書室/音楽室 /職員室/体育館/運動場/勉 強します/(保健室に) 行しま す/(本を) 読みます/歌いま す/(先生が) 仕事をします・ (先生が) います/運動します ②トイレ/(トイレに) 行って もいいですか/座ります/流しま す
ユニット6	給食を食べよう	①給食について知る ②給食で使う物がわかる ③給食の準備がわかる	①給食/食べます ②エプロン/マスク/帽子/給食 袋/おぼん/箸/お椀/お皿

		④給食のあいさつがわかる ⑤給食の後片付けがわかる	③待ちます／並びます／座ります ④いただきます／ごちそうさまでした
ユニット7	掃除をしよう	①掃除道具の名前がわかる ②掃除道具の使い方がわかる	①掃除／ぞうきん／バケツ／ほうき／ちりとり／ごみ箱 ②拭きます／汚いです／きれいです／掃きます／捨てます
ユニット8	元気に動こう	①体育について知る ②体育の時間に着る服、用意する物がわかる ③体育時など、集団行動において使う言葉がわかる ④ラジオ体操を体験する	①体育 ②使います／体操服／赤白帽／運動靴／体育シューズ ③並びます／前（へ）ならえ／小さく前（へ）ならえ／三角座り（体育座り）／休め ④体操をします／ラジオ体操
ユニット9	体の名前を覚えよう	①体の部位の名前がわかる ②体の調子を伝えることができる ③自分の作品を発表できる	①頭／肩／膝／手／目／耳／口／鼻／おなか／歯／眉(毛)／髪／顔 ②痛いです ③見てください／私の <u>顔</u> です
ユニット10	お弁当を作ろう	①お弁当について知る ②お弁当によく入れるおかずや食べ物の名前を知る ③箸の持ち方がわかる	①遠足／お弁当 ②おかずや食べ物の名前（ご飯・卵焼き・唐揚げ・サラダ・りんご・トマト等）／好きです／嫌いです／お弁当箱 ③箸／持ちます（使います）

5. モデル教案（略案）について

ここでは、p.11 から p.13 までのモデルカリキュラムに沿って、プレスクールの授業を想定したモデル教案（略案）をご紹介します。本モデル教案のコンセプトと、実際の授業に活用するためのポイントを以下にまとめます。

《モデル教案の見方》

1. 本モデル教案では、対象となる子どもの日本語能力をほぼゼロレベルと設定しています。日本で生活していて、日常的に見聞きする表現はわかっても、家庭で使ったり体系的に学んだりした経験はない子どもであると想定しています。
2. 1 の想定のため、指導者の発話量を極力少なく、やさしい日本語にしています。しかし、この日本語レベルでも難しい子どもたちも多いと思われます。その場合は、視覚的に理解できる教材やジェスチャー等で教室活動を進めていく必要があります。モデル教案の流れをわかりやすくするために、あえて指導者の発話を書いていますので、活用する際は、実際の子どもの日本語レベルに合わせて語彙や表現をコントロールしてください。
3. 「到達目標」「覚える言葉や表現」「目安時間」にある①、②、③…は対応しています。つまり、「到達目標①」のために「覚える言葉や表現①」を指導し、そのための活動内容と所要時間が「目安時間①」に書かれています。例えば、ユニット1の「到達目標① あいさつができる」ようになるために、「覚える言葉や表現① おはようございます / こんにちは / こんばんは / さようなら」を指導します。その指導内容が「目安時間①」に該当するところに書かれています。
4. 本モデル教案は、汎用性があり、地域差がないことから、言語形式は「です・ます」体を採用しています。しかし、現場によっては異なる言語形式を使用している場合もあると思います。子どもへの指示の際も「～ましょう」だったり「～てください」だったり、状況は様々だと考えられます。また、標準語よりも地域で使われている方言の方が重要な場合もあるでしょう。子どもたちの日本語レベルや環境に合わせて、モデル教案で使用している言語形式や表現は柔軟に変更してください。ただし、子どもたちが混乱するのを防ぐために、1つのプレスクールの期間中は同じ言語形式に統一することをお勧めします。担当するスタッフによって変わったりしないように留意しましょう。

≪モデル教案の使い方≫

1. モデル教案は略案です。授業の前には、さらに詳しい教案「細案」を書きます。

教案には様々な書き方があり、決まりはありません。指導者が自分にとって一番使いやすい形のものを作成しましょう。ただし、初めてプレスクールを担当する方は、自分の発言と、想定される子どもの発言、板書の内容、教材を使うタイミング、注意点、他のスタッフの行動等をすべて書き込んだ「細案」を必ず用意しましょう。細案がないと、子どもたちにとって難しい日本語を使ってしまうたり、指導者の発言が多くなりすぎたり、時間配分がうまくいかなかったりします。細案を作成したら、子どもたちの日本語レベルに合った語彙や表現を使用しているか、日本語教育の専門家にチェックしてもらいましょう。

2. ユニット名はその回の目的です。目的に合った到達目標を考えます。

例えば、ユニット1の目的は「友達になろう」です。そのために、「①あいさつ」をしたり、「③自分の名前」を答えたりできるようになることが到達目標です。また、教室活動に仲良く参加していくために、「②先生の指示を聞いて、行動できる」ようになることも必要です。目的に合った具体的な到達目標を考えましょう。子どもたちの日本語レベル等に合わせて、到達目標を減らしたり、1ユニットを2回に分けて行ったり、あるいは一部の到達目標を、別のユニットに組み込んだりしてもよいです。なお、通常60分程度の授業のうち、最初と最後の10～15分は各教室のルーティン活動（朝の会や宿題チェック、片づけなど）があると考え、本モデル教案では、1ユニット当たり45～50分程度の教室活動を想定しています。

3. 到達目標別に、学習する言葉や表現、教室活動（練習）を考えます。

例えば、ユニット1では①～④の到達目標に応じた練習や活動例をアからオで示しています。原則として、アからオへやさしいものから難しいものへと並べています。しかし、すべての練習や活動をしなければいけないわけではありません。子どもたちの特性や、地域、学習環境に応じて取捨選択したり、順番を変えたり、他の練習や活動を考えたりしてください。子どもたちの日本語レベルやその日の様子に合わせて、柔軟に対応できるように、様々な活動を準備しておくとう便利です。例えば、子どもたちがとても緊張しているようなら、初めにゲームやクイズをしてリラックスさせた方がよいかもしれません。「その他の活動例」も参考にしてください。

なお、モデル教案はできるだけ、新出語彙・表現の導入や指導→口頭や応答練習→体験的な活動の順になるように作成しています。新出語彙や表現は前半で導入し、教えていない言葉が、後半の活動で突然出てきたりしないようにすることが大切です。

ユニット1 友達になろう

T=指導者 S=子ども

到達目標	①あいさつができる ②先生の指示を聞いて、学校生活で必要となる基本的な行動ができる ③自分の名前が読める 自分の名前を聞かれて、答えることができる ④簡単な応答ができる	
覚える言葉や表現	① おはようございます / こんにちは / こんばんは / さようなら ② 立ちましょう / 座りましょう / 手を挙げましょう / 書きましょう / 読みましょう / やめましょう (または、「～てください」) ③ (わたしは / ぼくは) _____ 自分の名前 _____ です。 ④ はい / いいえ / わかりません	
目安時間	内 容	教材・板書など
① 5分 あいさつ	T: おはようございます。 S: おはようございます。 練習 ア. 絵カードを見せながら、それぞれのあいさつを口頭で練習する。 イ. 立って、おじぎをしてあいさつする。 ウ. 絵カードで場面を見せながら、TとS、S同士で立ってあいさつをする。	絵カード ・おはようございます ・こんにちは ・こんばんは ・さようなら
② 20分 基本的な行動	※①で立ったり座ったりしているので、その流れで導入。 T: 立ちましょう。 S: [その場で立つ] ※実際に動いてもらい、意味を紹介する。 ※T が使う表現なので、S は口頭練習をしなくてもよい。聞いて意味を理解し、反応できるようにする。 練習 ア. Tが指示を出して動くゲーム。 イ. いす取りゲーム: 音楽を小さく流し、Tが「座りましょう」と言ったら、座る。いすに座れなかったSが、次に指示を出してもいい。	絵カード ・立ちます ・座ります ・手を挙げます ・書きます ・読みます ・やめます 初めに、Tと他のスタッフがやってみせて、ルールを理解させる。

<p>③20分 名前</p> <p>④5分 応答</p>	<p>[黒板に縦書きと横書きで書かれたSの名札を、できるだけバラバラに貼る。Tの名札も入れておく。練習ではTが初めに見本を見せる]</p> <p>練習 ア. 黒板から自分の名札を探す。 イ. 名札を持って、自分の名前を言う。 「(わたしは) _____です」 ウ. Tに名前を聞かれて、答える。 「お名前は」「(わたしは) _____です」 エ. みんなの名前を覚えたかクイズをする。 オ. 縦書きと横書きの練習をする。 →ひとつ書いてみて、残りは宿題にする。</p> <p>今日使った絵カードを見せながら、Sに「わかりますか」と聞いて、「はい」「いいえ」「わかりません」を導入する。 今日勉強した言葉や表現の復習を兼ねて練習する。</p>	<p>マグネットシートで作った名札 (Sの人数分+T)</p> <p>板書 「(わたしは) _____です」 ※「わたしは」は子どもの日本語レベルに合わせて導入する。</p> <p>名前を練習するワークシート 絵カード ・わかります</p>
<p>その他の活動例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」についての絵本の読み聞かせをする。可能であれば多言語とする。 ・自分の国のあいさつを紹介する。 ・「ありがとうございます」「ごめんなさい」など、他のあいさつを絵カードなどで確認して、どんな時に使うかなど話す。 ・家族の名前をみんなに紹介する。 ・自分の国の言語でも名前を書いて、みんなに紹介する。 	
<p>宿題の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつを復習するワークシート (イラストとあいさつを線で結ぶ、など) ・鉛筆で線を描く練習 (ユニット2の予習も兼ねる) 例:「新版いっしょにまなぼう みえこさんのにほんご れんしゅうちょう1」p3-p5 ・自分の名前を練習するワークシート 	
<p>備考</p>	<p>教室での指示表現として、「~ましょう」と「~てください」のどちらを (または両方) 導入するか、名前をひらがなとカタカナのどちらの表記にするかは、地域や通学予定の学校の実態、子どもの日本語レベルを考慮して決める。</p>	
<p>参考教材</p>	<p>「新版いっしょにまなぼう みえこさんのにほんご」(2007), (公財) 三重県国際交流財団 (以下、教案ではMIEFと表記), p1-p16</p> <p>「こどもにほんご宝島」(2009), アスク出版社, p12-15, 「第1話 ぼくの・わたしの名前」</p> <p>「にほんごをまなぼう」(1991), 文部科学省, p1-p11</p>	

ユニット2 いろいろ書いて／描いてみよう

T=指導者 S=子ども

到達目標	①基本的な筆記用具の名前がわかる ②鉛筆を正しく持つことができる 鉛筆で書いたり、消しゴムで消したりすることができる ③いろいろな文房具の名前がわかる ④いろいろな文房具を正しく使える	
覚える言葉や表現	① 筆箱 / 鉛筆 / 消しゴム / ノート / 下敷き / 定規 ② 書きます / 消します ③ のり / 色鉛筆 (クレヨン、クーピー等) / はさみ / 鉛筆削り	
目安時間	内 容	教材・板書など
①10分 筆記用具の名前	T : [筆箱を見せる] これは何ですか。 S : 筆箱です。 練習 ア. 実物を見せながら、それぞれの単語を口頭で繰り返して練習する。 イ. 袋または箱に実物を入れる。手を入れて、触ったものが何か当てるゲームをする。 ウ. 応答練習「何ですか」「鉛筆です」 エ. 否定を入れた応答練習 「(これは) 鉛筆ですか」「ちがいます」	以下の実物または絵カード等 ・筆箱 ・鉛筆 ・消しゴム ・ノート ・下敷き ・定規 ※必要に応じて、上記の名前をひらがなで板書する。
②20分 鉛筆を正しく使う	T : [黒板に字や線を書きながら]書きます。 S : 書きます。 T : [黒板の字や線を消しながら]消します。 S : 消します。 T : [鉛筆でノートに何か書きながら]鉛筆で… S : 書きます。 T : [消しゴムで消しながら]消しゴムで… S : 消します。 練習 ア. Tが見本を見せて、鉛筆を正しく持つ。 イ. 練習プリントの線や図形をなぞる。	板書、絵カード かきます けします 線、曲線、文字や自分の名前をなぞるための練習プリント

<p>③5分 文房具の 名前</p> <p>④15分 文房具を 使う</p>	<p>ウ. 書いたものをきれいに消しゴムで消す。 エ. 文字や自分の名前をなぞる。 オ. 文字や自分の名前を書く。</p> <p>T: [のりを見せる] これは何ですか。 S: のりです。</p> <p>練習 ア. 実物を見せながら、それぞれの単語を口頭で 繰り返し練習する。 イ. 色鉛筆については、よく使う色を紹介し、口頭 練習をする。</p> <p>【活動 いろいろな文房具を使ってみる】 子どもたちの様子を見て、以下のような活動を行う。楽 しく文房具に親しめるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定規を使って、線や三角形、四角形などを描く。 ・ 描いた線や図形をきれいに消す。 ・ 赤鉛筆で○を描く。 ・ 色鉛筆やクレヨンで図形や絵に色をぬる。 ・ はさみで図形や絵を切り抜く。 ・ 画用紙に折り紙や切り抜いた図形などをのりで貼る。 ・ 鉛筆削りで鉛筆を削る。 	<p>以下の実物または絵カードなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ のり ・ 色鉛筆（クレヨン等） ・ はさみ ・ 鉛筆削り <p>板書（色の名前）</p> <p>図形や塗り絵のワークシート、折り紙、画用紙、色紙、色鉛筆、クレヨン等</p>
<p>宿題の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉛筆で線を描いたり、名前を書いたりする練習ワークシート ・ 塗り絵や図形をなぞるワークシート 	
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ はさみや鉛筆削りは危険がないように、正しく扱うことを理解させる。 ・ 名前書き用のペン（学校指定）の使い方（名前を書く練習）を追加してもよい。 	
<p>参考教材</p>	<p>「ブレスクール実施マニュアル」（2009），愛知県，p166，活動例 4 <鉛筆の持ち方・運筆> 「みえこさんのにほんご れんしゅうちょう 1」（2011），MIEF，p3-6 「外国人幼児向け日本語学習教材たのしい1ねんせい」（2016），愛知県，p19-22 1年生の国語教科書等に掲載されている「えんぴつのもちかた」</p>	
<p>保護者の 方へ伝え ること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉛筆の濃さなど、学校によって指定の文房具があるため、どんな文房具が必要か確認した上で、購入できる場所などを紹介する。 ・ 「連絡帳」の使い方や注意点を説明し、保護者から子どもにも説明してもらう。 	

ユニット3 学校へ行こう【持ち物編】

T=指導者 S=子ども

到達目標	①ランドセルについて知る ②学校に持って行く物の名前がわかる ③学校に持って行ってはいけない物がわかり、学校へ行く準備ができる	
覚える言葉や表現	① (学校へ) 行きます / ランドセル ② (～に) 入れます / 帽子 / 上靴 / 上靴の袋 / 水筒 / 教科書 / ノート / 筆箱 / ハンカチ / ティッシュ ③ いい / だめ	
目安時間	内 容	教材・板書など
①5分 ランドセル	T: 学校へ行きます。 [ランドセルを見せながら] これは何ですか。 S: ランドセルです。 T: ランドセルをしょって、学校へ行きます。 練習 実物があれば、Tが空(から)のランドセルをしょってみせる。Sもしょってみる。 ※「しょう」という言葉は特に説明しない。 実際にしょって、どんな感じが体験させる。	板書、絵カード いきます 実物または写真、絵カード ・ランドセル ・ランドセルをしょっている子ども
②10分 持ち物の名前	T: [ランドセルを開けて、中に物を入れながら] ランドセルにノートを入れます。入れます。言いましょう。 S: 入れます。 練習 いれます の板書、または絵カードの前に、「持つて行く物」の絵カードを貼り、「ランドセルに〇〇を入れます」と口頭練習をする。	板書、絵カード いれます 実物または写真、絵カード ☆持つて行く物(例) ・ランドセル ・帽子 ・上靴 ・上靴の袋 ・水筒(水か茶) ・教科書 ・ノート ・筆箱 ・ハンカチ ・ティッシュ ☆持つて行かない物(例) ・スマートフォン (携帯電話)
③30分 学校へ行く準備	【活動 学校へ持つて行く物を選ぶ】 ・黒板に持つて行く物と持つて行かない物の絵カードを混ぜて貼る。 ・Sにランドセルの絵が描かれたワークシートを配布し、ランドセルに入れるものを考えさせる。ワークシートに絵を描き込むか、シールを貼る。 ※ランドセル等は実物を使って、実際にランドセルに	

<p>④ 5分 まとめ</p>	<p>入れさせてもよい。 ※ペア、もしくはグループワークで行ってもいい。</p> <p>T: 何を入れましたか。 S: ノートと時計を入れました。 T: <u>ノート</u>はいいです。 <u>時計</u>はだめです。 <u>ジュース</u>はいいですか。だめですか。 S: だめです。</p> <p>練習 ア. 他のものについても、ひとつずつ「○」「×」 で持って行くもの、持って行かないものを確認する。「○」「×」を貼った机の上に、物を置いていく。 イ. もう 1 度、ランドセルに必要なものをきちんと入れてみる。</p> <p>T: ランドセルに全部入れました。 ランドセルをしょって、学校へ行きます。 [いっぱいになったランドセルをしょってみる。 帽子もかぶって、学校に行く雰囲気味わう]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポータブルゲーム機 ・時計 ・ぬいぐるみ ・食べ物 ・ジュース ・ペット <p>「○」「×」のペープサート 板書 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>いいです</td></tr> <tr><td>だめです</td></tr> </table></p>	いいです	だめです
いいです				
だめです				
<p>その他の活動例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最後にランドセルから物を出して、物の名前の再確認と、「出します」を教える。 ・「～てもいいです」「～てはいけません」の導入と練習をする。 			
<p>宿題の例</p>	<p>持ち物リストを多言語表記した説明書等を保護者と読む。</p>			
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの日本語レベルに応じて、持ち物の名前の読み書きを教えてもいいが、この教案では、持って行っていいもの、だめなものが認識できることを目標とした。 ・地域や学校によって持ち物のきまりは違うため、子どもたちが通学予定の学校や教育委員会に事前に確認しておく。 			
<p>参考教材</p>	<p>「ブレスクール実施マニュアル」(2009), 愛知県, p180-p183, 活動例 16「もちもの」シート 「外国人幼児向け日本語学習教材たのしい1ねんせい」(2016), 愛知県, p7-8 「がっこうたんけんしょうがっこうだいずかん」(2016), 金の星社, p28-p29</p>			
<p>保護者の方へ伝えること</p>	<p>体操服も含めて、持ち物にはすべて名前を書くが、近年見るところには名前を付けないようにしている学校もあるので確認する。</p>			

ユニット4 学校へ行こう【交通ルール編】

T=指導者 S=子ども

到達目標	①自分が通う学校がわかる ②信号の意味がわかる ③横断歩道の渡り方がわかる	
覚える言葉や表現	① _____ 小学校（通学予定の学校名） / （～へ）行きます ② 信号 / 赤 / 青 / 黄色 / （横断歩道を）渡ります / 止まります 危ない ③ 右 / 左 / 見ます	
目安時間	内 容	教材・板書など
①10分 学校の名前	T：これは小学校です。 みなさんは4月から小学校へ行きます。 小学校の名前を知っていますか。 S：〇〇〇小学校です。 練習 ア. 子どもたちが通学予定の学校名を紹介する。 イ. 学校名を口頭練習する。	絵カード ・学校 ・行きます 学校の位置がわかる周辺の地図など
②20分 信号の意味	T：これは何ですか。 S：信号です。 T：何色ですか。 S：青です。 練習 色の名前を口頭練習する。 T：信号が青です。渡ります。 信号が赤です。どうしますか。 S：渡りません（歩きません／行きません）。 T：そうですね。あぶないです。止まります。 練習 ア. 赤、黄色、青の色紙（または信号の絵カード）をランダムに見せて、「渡ります」「止まります」を言う。	絵カード ・信号（歩行者用、車用） 板書 あか あお きいろ 絵カード ・横断歩道 ・渡ります（歩きます） ・止まります ・危ない 板書 わたります とまります あぶないです

<p>③20分 横断歩道の渡り方</p>	<p>イ. 黄色の時はどうしたらいいか考える。</p> <p>T: (横断歩道を) 渡ります。 右を見ます。左を見ます。もう一度、右を見ます。</p> <p>練習 ア. Tが「右・左・右」を見て、手を挙げて横断歩道を渡るところを見せる。Sも同じようにする。 イ. Tが信号の絵カードを示し、その信号に合わせてSが横断歩道を渡ったり、止まったりする。 ウ. 外に出て、実際の横断歩道を渡る。</p>	<p>板書、絵カード</p> <p>みぎ ひだり みます</p> <p>下に置いて、実際に渡れるくらいの横断歩道を描いた模造紙</p>
<p>その他の活動例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で使う「登校」「下校」「登下校」等の言葉を紹介する。 ・口語でよく使われる「危ない!」「止まれ!」等の聞き取りをする。 ・交通ルールに関する絵本の読み聞かせをしたり、ビデオを見たりする。可能であれば多言語で行う。 ・登下校時の安全に関わる標識を紹介する。 	
<p>宿題の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色の無い信号のイラストに色を塗る。 ・家から通学予定の小学校まで、実際に親子で歩いてみる。 	
<p>備考</p>	<p>通学時のグループについては、「通学班」、「通学団」、「縦割り班」等、各地で名称が異なることに留意する。子どもに教える場合には、当該学区の名称で伝える。</p>	
<p>参考教材</p>	<p>「新版いっしょにまなぼう みえこさんのにほんご」(2007), MIEF, p51-52 「こどもにほんご宝島」(2009), アスク出版社, p68-69 「にほんごをまなぼう」(1991), 文部科学省, p22-23</p>	
<p>保護者の方へ伝えること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として歩いて登校しなければいけない。雨の日でも歩いて登校させる。 ・学校の決まりや状況により、集団登校をする場合がある。集団登校するグループは「通学班」「通学団」「縦割り班」等と呼ばれる。欠席する場合は、学校や集団登校のグループへ連絡しなければならない。 ・通学路は決められているので、事前に学校に確認する。入学までに子どもと一緒に実際の通学路を歩いて確認するとよい。決められた通学路を使わないと、事故の際に保険が適用されない場合があるので、注意する。 ・一般的に、通学路には保護者が立って子どもの安全を見守ることになっている。これは保護者が順番に担当する。 	

ユニット5 学校を探検しよう

T=指導者 S=子ども

到達目標	①学校の中の場所の名前がわかる ②トイレの使い方がわかる											
覚える言葉や表現	① 教室 / 保健室 / 図書室 / 音楽室 / 職員室 / 体育館 / 運動場 / 勉強します / (保健室に) 行きます / (本を) 読みます / 歌います / (先生が) 仕事をします・(先生が) います / 運動します ② トイレ / (トイレに) 行ってもいいですか / 座ります / 流します											
目安時間	内 容	教材・板書など										
①30分 場所の名前	<p>[ビデオや写真を見せながら]</p> <p>T: これは小学校です。色々な部屋があります。 ここで何をしますか。</p> <p>S: 勉強します。</p> <p>T: 勉強します。 教室です。教室で勉強します。 ※同様に各部屋とそこであることを確認する。 保健室 → 頭が痛いです。けがをしました。(※) 保健室に行きます。 ※「頭が痛い」「けがをした」「具合が悪い」等の絵カードやジェスチャーで状況を伝える。これらの表現は言葉として教えなくてもいい。</p> <p>図書室 → 本を読みます 音楽室 → 歌を歌います 職員室 → 先生が仕事をします・先生がいます 体育館、運動場 → 運動します</p> <p>練習 場所の絵カードと動詞の絵カードを使って、カード合わせ（神経衰弱でも良い）をする。</p>	<p>小学校の中がわかるビデオや写真、イラスト等</p> <p>ビデオ、写真、絵カード等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室 ・保健室 ・図書室 ・音楽室 ・職員室 ・体育館 ・運動場 <p>板書、絵カード</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td colspan="2">べんきょうします</td></tr> <tr><td>いきます</td><td>よみます</td></tr> <tr><td colspan="2">うたいます</td></tr> <tr><td colspan="2">しごとをします</td></tr> <tr><td colspan="2">うんどうします</td></tr> </table>	べんきょうします		いきます	よみます	うたいます		しごとをします		うんどうします	
べんきょうします												
いきます	よみます											
うたいます												
しごとをします												
うんどうします												
③20分 トイレの使い方	<p>T: [トイレの写真を見せながら]これは何ですか。</p> <p>S: トイレです。</p> <p>T: 教室で勉強しています。でも、トイレに行きたいです。 どうしますか。先生に何と言いますか。</p> <p>S: 先生、トイレに行ってもいいですか。</p>	<p>写真または絵カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和式と洋式のトイレ <p>※ジェスチャーやイラストで状況を説明する。</p>										

	<p>T: いいですよ。</p> <p>練習 「トイレに行ってもいいですか」を口頭練習する。</p> <p>【活動 トイレの使い方】</p> <p>例：スリッパに履き替える → 便座に座る → 用を足す → 紙でふく（使う紙の量も気をつける） → 紙を便器の中に入れる → 便器の水を流す</p> <p>※地域や場所によって使い方に違いがあるので注意する。</p> <p>※言葉ではなく、一連の行動を理解させる。</p> <p>※可能であれば、実際のトイレを使ってみる。</p>	<p>トイレ（和式と洋式）の使い方がわかるイラストや絵本</p>
<p>その他の活動例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に通学予定の小学校を訪問し、どこに何があるかを確認する。また、校内でかくれんぼや鬼ごっこ等のゲームをして、学校に親しむ。これらは保護者と一緒に参加できると良い。 ・廊下は走らないこと、右側を歩くこと、などの決まり事やロッカーや下駄箱の使い方を教える。 	
<p>宿題の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の写真（イラスト）と名前を線で結ぶワークシート ・和式トイレを使ったことがないようであれば、和式トイレがある場所を紹介し、親子で体験する。 	
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や公共施設では、まだ和式トイレが多い場合もある。 ・子どもの母国のトイレと日本のトイレは使い方が違うことがあるので注意する。 	
<p>参考教材</p>	<p>「がっこうたんけん しょうがっこう だいずかん」(2016), WILL こども知育研究所, p6-13,16-25,44-45</p> <p>「新版いっしょにまなぼう みえこさんのにほんご」(2007), MIEF, p20,32-34</p> <p>「にほんごをまなぼう」(1991), 文部科学省, p13</p>	
<p>保護者の方へ伝えること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、トイレは休み時間に行くべきだが、授業中に行きたくなった場合は絶対に我慢しないようにする。みんなの前で言うのが恥ずかしい場合は、先生を呼んでそっと伝えるようにする。 ・入学前までに家庭でのトイレトレーニングをしっかりとる。紙の始末や水の流し方等を子どもに教える。 ・学校ではトイレ掃除も子どもたちがする。 	

ユニット6 給食を食べよう

T=指導者 S=子ども

到達目標	①給食について知る ②給食で使う物がわかる ③給食の準備がわかる ④給食のあいさつがわかる ⑤給食の後片付けがわかる	
覚える言葉や表現	① 給食 / 食べます ② エプロン / マスク / 帽子 / 給食袋 / おぼん / 箸 / お椀 / お皿 ③ 待ちます / 並びます / 座ります ④ いただきます / ごちそうさまでした	
目安時間	内 容	教材・板書など
①5分 給食について	T：これから給食の時間です。 [給食風景のビデオを視聴する。または絵カードや写真を見せる。給食の一例の写真を見せる] T：給食です。学校で給食を食べます。	給食の様子がわかるビデオ、写真または絵カード 板書、絵カード 食べます
②10分 給食で使う物	T：これは何ですか。 S：エプロンです。 練習 給食当番が使う物を紹介して、口頭練習をする。 T：これは何ですか。 S：おぼんです。 練習 給食で使う食器類を紹介して、口頭練習をする。	実物 ・エプロン ・マスク ・帽子 ・給食袋 ・箸 ・おぼん ・お椀 ・お皿 ※黒板には写真か絵カードを掲示する。
③20分 給食のルール	T：[ビデオや写真を見せながら] マスクをします。待ちます。並びます。座ります。 【活動 給食の準備をする】 ・給食当番が、お皿やお椀に食べ物を入れること、当番以外の子は1種類ずつ、おぼんに取っていくこと等、Tが実際にやって見せる。	板書、絵カード 待ちます 並びます すわります 実物または写真、絵カード ・おぼんと食器類 ・おぼんにお椀やお皿の

<p>④5分 給食のあいさつ</p> <p>⑤10分 給食の後片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> 給食当番をするS(グループ)を決めて、エプロン、マスク、帽子を身に着ける。当番のS(グループ)は実際の食器におかずや果物の絵カードを入れる。 その他のSは、おぼんを持って並び、自分の給食を取って運ぶ。 <p>T:いただきます。 S:いただきます。 [食べるふりをする。食べた物は、カードを裏返す。裏返すと、「ごちそうさまでした」が書いてある] T:ごちそうさまでした。 S:ごちそうさまでした。</p> <p>【活動 食器を片付ける】 T:食べました。片付けましょう。 ※Tがやって見せて、ルールを理解させる。</p>	<p>置き方を描いた絵</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食に出るおかず、牛乳、ごはん、果物等の絵カード(※裏面に「ごちそうさまでした」と書いておく) <p>板書 いただきます</p> <p>板書 ごちそうさまでした</p>
<p>その他の活動例</p>	<ul style="list-style-type: none"> 給食でよく出るメニューから、飲み物、食べ物の名前を導入して、クイズをする。 給食のメニューや素材をテーマに、「好きです」「苦手(嫌い)です」「飲みます」「食べます」の表現を導入し、質問や応答の練習をする。 「おいしい」「あまい」等の味覚表現や、「熱い」「冷たい」の表現に触れる。 エプロンのたたみ方を練習する。 	
<p>宿題の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> おかずや果物、野菜等の塗り絵をする。 イラストや写真を「おかず」、「果物」、「野菜」などにグループ分けする。 給食について紹介したワークシートや、子ども用と保護者用の実際のメニュー表を見ながら、親子で話をする。 	
<p>備考</p>	<p>給食時のルール(マスクやおしゃべり等)は学校によって異なるため事前に確認する。</p>	
<p>参考教材</p>	<p>ちびむすドリル 幼児の学習素材館 (https://happyilac.net/kisetsu-sozai.html)</p> <ul style="list-style-type: none"> 置き換え「記号を描き入れよう」食べもの編・くだもの編・やさい編 やさしいお絵描き教材(線なぞり)野菜・果物 <p>「ひと目でわかる! 教室で使うみんなのことば 学校の日」(2017), 文研出版, p24-31</p>	
<p>保護者の方へ伝えること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 宗教、信条や体質により食べられない物がある場合は、必ず事前に先生に伝える。 朝ごはんは毎日きちんと食べる。学校ではおやつ等を食べてはいけない。 給食の配膳をするので、爪は短く切り清潔に保つようにする。 	

ユニット7 掃除をしよう

T=指導者 S=子ども

到達目標	①掃除道具の名前がわかる ②掃除道具の使い方がわかる	
覚える言葉や表現	① 掃除 / ぞうきん / バケツ / ほうき / ちりとり / ごみ箱 ② 拭きます / 汚いです / きれいです / 掃きます / 捨てます	
目安時間	内 容	教材・板書など
①10分 掃除道具 の名前	[掃除風景のビデオや写真、絵カード等を見せながら] T: 何をしていますか。 S: 掃除をしています。 T: 掃除をしています。学校ではみんなで掃除をします。 これは掃除の時間です。 T: これは何ですか。 S: ごみ箱です。 練習 掃除道具を紹介して、口頭練習をする。	掃除の様子がわかるビデオ、写真、絵カード等 実物 ・雑巾 ・バケツ ・ほうき ・ちりとり ・ごみ箱 ※黒板には写真か絵カードを掲示する。
②40分 掃除道具 の使い方	T: みんなで掃除をします。これは雑巾です。 (机が) 汚いです。拭きます。きれいです。 S: 雑巾です。汚いです。拭きます。きれいです。 練習 絵カードで口頭練習 【活動 雑巾を使う】 Tが動作を繰り返しながら手順を見せる。 例 雑巾を半分に折る → バケツに入れて濡らす → 雑巾を絞る → 机の上を拭く ※初めは、雑巾を濡らさない状態で練習をする。慣れてきたら、実際にバケツの水で濡らして練習する。 T: (机を) 拭きます。※自分の机の上を拭くように促す。 S: 拭きます。 T: きれいになりましたね。	板書、絵カード きたないです 拭きます きれいです

	<p>T: これはほうきです。ちりとりです。ごみ箱です。 (床が) 汚いです。掃きます。きれいです。 (ごみを) ごみ箱に 捨てます。</p> <p>【活動 ほうき、ちりとり、ごみ箱を使う】 Tが動作を繰り返しながら手順を見せる。 少しずつ前に進むこと、ほうきを振り上げない、穂先はやさしく上げ下げして使う等、注意点を押さえる。</p> <p>T: 掃除が終わりました。片付けましょう。 [みんなで道具を所定の場所に片付けたり、汚れた雑巾を洗って干したりする]</p>	<p>板書</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 5px;"> はきます すてます </div>
<p>その他の活動例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「机を運ぶ(後ろに下げる、前を出す)」活動や必要な表現を教える。 ・雑巾の使い方、「濡らす」「絞る」「折る」などの関連表現を追加する。 ・「拭いて(ください)」「掃いて(ください)」等の指示語を追加して、Tの指示に従って行動できるかゲームをする。 ・廊下や他の教室も掃除する。 	
<p>宿題の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除道具のイラストと名前が書かれたワークシートを渡して線で結ぶ。または名前の書き取りをする。 ・家の中にどんな掃除道具があるか、保護者と探してくる。 ・自宅で掃除のお手伝いをする。 	
<p>備考</p>	<p>三重県では物を持ち上げて運ぶ際には「つる」という表現をよく使う。「机をつる」という表現を紹介してもよい。</p>	
<p>参考教材</p>	<p>「ひと目でわかる! 教室で使うみんなのことば 学校の日」(2017), 文研出版, p36-37</p>	
<p>保護者の方へ伝えること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の学校では、子どもたちが自分たちの教室や廊下、トイレを掃除する。自分が汚したものは自分できれいにするという考え方がある。 ・雑巾は各自で準備しなければならない。古タオルなどは不可の場合が多いので、学校に確認する。100円ショップや近所のスーパーなど、雑巾を購入できる場所を紹介するとよい。 	

ユニット8 元気に動こう

T=指導者 S=子ども

到達目標	①体育について知る ②体育の時間に着る服、用意する物がわかる ③体育時など、集団行動において使う言葉がわかる ④ラジオ体操を体験する	
覚える言葉や表現	① 体育 ② 使います / 体操服 / 赤白帽 / 運動靴 / 体育シューズ ③ 並びます / 前(へ)ならえ / 小さく前(へ)ならえ 三角座り(体育座り) / 休め ④ 体操をします / ラジオ体操	
目安時間	内 容	教材・板書など
①10分 体育について	T:今日は体育の時間です。 [体育のいろいろな運動の写真などを見せる] T:この時間は体育です。体育、言いましょう。 S:体育。 T:体育が好きですか。嫌いですか。 S:好きです。 / 嫌いです。 練習 学校の体育でする運動の写真やイラストを見せて、知っているか、好きか嫌いかなどの質問と応答の練習をする。	体育でする運動の写真または絵カード 板書 たいいく すきです きらいです
②10分 体育で着るもの等	T:[実物を見せながら]体育の時間に使います。 体操服。言いましょう。 S:体操服。 練習 他の物についても、同様に練習する。	板書、実物または写真等 たいそうふく あかしろぼう うんどうぐつ たいいくしゅーず
③20分 体育で使う言葉	T:立ちます。 S:[Tがその場で立つように促す] T:並びます。	板書、絵カード たちます ならびます

<p>④10分</p>	<p>S : [T が一列に並ぶように促す]</p> <p>練習 以下の動作についても、実際に動いて練習する。</p> <p>※一番前の子どもは腰に手を当てる。</p> <p>前（へ）ならえ / 小さく前（へ）ならえ</p> <p>三角座り（体育座り） / 休め</p> <p>【活動 集団で動く】</p> <p>ア. T の指示に従って、S が全員動く。</p> <p>イ. S の一人が指示をして、その他のS が動く。</p> <p>T : みんなで体操をします。一緒にしましょう。</p> <p>【活動 ラジオ体操】</p> <p>初めにT が動いて見せる（または動画を見せる）。</p> <p>次に全員で体操する。</p>	<p>まえへならへ</p> <p>さんかくずわり</p> <p>やすめ</p> <p>※表現は地域によって異なる場合がある。</p> <p>動画「ラジオ体操」</p>
<p>その他の活動例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「使います」の代わりに、「着ます」「履きます」を導入して練習する。 ・実際の体育館や運動場に行き、いろいろな体育道具に触れてみる。 ・運動会について紹介する。運動会でよくある競技を体験してみる。 ・得意なスポーツや、母国で人気のスポーツなどについて話す。 	
<p>宿題の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を見て、家族とラジオ体操をやってみる。 	
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって、同じ道具であっても名称が違ったり、使う言葉や表現が違ったりすると思われるので、学校や地域の実情に合わせて導入する言葉を選ぶ。 ・余裕があれば「水着」「水泳帽」などについても紹介する。 	
<p>参考教材</p>	<p>「外国人幼児向け日本語学習教材たのしい1ねんせい」(2016), 愛知県, p7-8</p> <p>「ひと目でわかる! 教室で使うみんなのことば 学校の日」(2017), 文研出版, p24-31</p> <p>NHK どーがレージ https://www.nhk.or.jp/d-garage-mov/movie/68-1.html (2020-2-14 参照)</p>	
<p>保護者の方へ伝えること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の時は体操服を必ず持って行く。体操服を持って行かないと、「休み」とみなされることもある。 ・学校では子どもは自分で着替えをしなければならないので、家庭でも着替えがスムーズにできるように練習しておく。 ・プール授業のある季節には、シラミが流行することがある。シラミになった場合の対処方法（専用のシャンプーを薬局で購入する等）や注意点を伝える。 	

ユニット9 体の名前を覚えよう

T=指導者 S=子ども

到達目標	① 体の部位の名前がわかる ② 体の調子を伝えることができる ③ 自分の作品を発表できる																																					
覚える言葉や表現	① 頭 / 肩 / 膝 / 手 / 目 / 耳 / 口 / 鼻 / おなか / 歯 / 眉(毛) / 髪 / 顔 ② 痛いです ③ 見てください / 私の <u>顔</u> です																																					
目安時間	内 容	教材・板書など																																				
①20分 体の名前	<p>[歌「♪あたまかたひざぼん」を歌う。歌いながら、Tが動く。「ぼん」を「手」に替えて歌う]</p> <p>T：[頭を押さえながら]頭。 S：頭。</p> <p>導入 同様に歌に出てくる言葉を導入する。 その後、追加で「目」「耳」「口」「鼻」「おなか」「歯」「眉(毛)」「髪」「顔」も導入する。 ※子どもの日本語レベルによって、導入する言葉の数は調整する。</p> <p>練習 ア. Tが体の部位を指し示して、名前を言う。SはTの真似をして言う。 イ. 名前を言わずに、Tは体の部位を指し示す。Sはその部位の名前を答える。 「何ですか」「耳です」 ウ. Tは名前だけを言う。Sはその名前の部位を指し示す。</p>	歌のCD、動画など 体の部位の板書、絵カード <table border="1" data-bbox="1082 1003 1406 1227"> <tr><td>あ</td><td>た</td><td>ま</td><td>か</td><td>た</td><td>ひ</td><td>ざ</td><td>ぼ</td><td>ん</td></tr> <tr><td>め</td><td>み</td><td>み</td><td>く</td><td>ち</td><td>は</td><td>な</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>お</td><td>な</td><td>か</td><td>は</td><td>ま</td><td>ゆ</td><td>げ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>か</td><td>み</td><td>か</td><td>お</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>※名前を言うタイミングと部位を指し示すタイミングがずれないように気をつける。</p>	あ	た	ま	か	た	ひ	ざ	ぼ	ん	め	み	み	く	ち	は	な			お	な	か	は	ま	ゆ	げ			か	み	か	お					
あ	た	ま	か	た	ひ	ざ	ぼ	ん																														
め	み	み	く	ち	は	な																																
お	な	か	は	ま	ゆ	げ																																
か	み	か	お																																			
②10分 体の調子を伝える	T：痛いです。頭が痛いです。おなかが痛いです。 歯が痛いです。言いましょう。 S：痛いです。頭が痛いです。おなかが痛いです。	絵カード ・頭が痛い ・歯が痛い ・おなかが痛い																																				

<p>③15分 自分の作品を発表する</p> <p>④5分 復習(歌)</p>	<p>練習 ア. 他の体の部位の絵カードを使って、「〇〇が痛いです」と言う。</p> <p>イ. 以下の応答練習をジェスチャーや絵カードを使って行う。</p> <p>「どこが痛いですか」「おなかが痛いです」</p> <p>【活動 自分の顔を描く】</p> <p>T : 顔を描きます。</p> <p>[鼻、口、眉(毛)、目、耳、頭、髪、と声に出しながら、絵を描いていく]</p> <p>T : 見てください。私の顔です。</p> <p>では、みんなも描きましょう。</p> <p>S : [自分の顔を描く]</p> <p>【活動 自分の絵を発表する】</p> <p>S : 見てください。私の顔です。</p> <p>※さらに、私の鼻です、私の口です、私の目です…と絵を指しながら言わせてもいい。</p> <p>[今日のまとめとして、歌「♪あたまかたひざぼん」をもう一度歌いながら動く]</p>	<p>板書 いたいです</p> <p>画用紙、クレヨン、色鉛筆等</p>
<p>その他の活動例</p>	<p>2人1組になり、Tが体の部位の名前を言ったら、その部位を合わせる(例 Tが「手」と言ったら、SとSは互いの手を合わせる)。</p>	
<p>宿題の例</p>	<p>体の部位のイラストと名前を線でつなぐワークシート</p>	
<p>備考</p>	<p>余裕があれば、「けがをしました」「血が出ました」「気持ちが悪いです」などの表現や、学校には保健室があり、具合が悪いときにはそこに行くことを教える。</p> <p>教室内に部位の名称が書かれた人体のイラストや模型を置いておくと良い。</p>	
<p>参考教材</p>	<p>「ことばつかいかた絵じてん」(1998),三省堂</p>	
<p>保護者の方へ伝えること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席、遅刻時は必ず事前に連絡する(学校によって連絡方法が違うので確認する)。 ・学校には保健室があり、応急処置などをしてもらえる。帰宅が必要となる場合は、一般的に学校から保護者に連絡があり、保護者が迎えに行く。 ・学校で流行しやすい、インフルエンザやシラミなどについての知識や対処方法。 	

ユニット 10 お弁当を作ろう

T=指導者 S=子ども

到達目標	①お弁当について知る ②お弁当によく入れるおかずや食べ物の名前を知る ③箸の持ち方がわかる	
覚える言葉や表現	① 遠足 / お弁当 ② おかずや食べ物の名前（ご飯・卵焼き・唐揚げ・サラダ・りんご・トマト等） 好きです / 嫌いです / お弁当箱 ③ 箸 / 持ちます（使います）	
目安時間	内 容	教材・板書など
① 5分 お弁当を知る	[遠足の様子が見える写真や絵カードを見せながら] T：学校には遠足があります 遠足は、みんなで公園等に行きます。 遠足のときは、給食がありません。 お弁当を食べます。家からお弁当を持って行きます ※必要に応じて、通訳に説明してもらおう。	遠足やお弁当の写真、絵カード
② 30分 食べ物の名前を知る	[お弁当の写真かイラストを見せながら] T：これは私のお弁当です。これは何ですか。 S：トマトです。 T：好きですか。嫌いですか。 S：好きです。 ※おかずや果物等のカードを見せ、好きな食べ物の時に、「好きです」と言って手を挙げさせる。 【活動 お弁当を作る】 T：お弁当を作ります。これはお弁当箱です。 お弁当箱に…ご飯、唐揚げ、サラダ…。 [黒板に空のお弁当箱の絵を貼り、その上に、ご飯、唐揚げ、サラダ等の絵カードを貼ってお弁当を作る] T：お弁当ができました。 みんなも、お弁当を作りましょう。 [お弁当箱と食べ物の絵カードを1セットずつ渡す]	板書、絵カード すきです きらいです 絵カード (SとTの人数分を用意) ・お弁当箱 ・おかずや食べ物 ※実物の子ども用のお弁当箱を使ってもいい。

<p>③15分 箸の持ち方</p>	<p>練習 ア. Tが言った食べ物のカードをお弁当箱に貼っていく。食べ物の名前を言いながら貼る。 イ. Sが食べ物のカードを自由に選んで自分のお弁当箱に貼る。完成したお弁当をみんなに発表する。</p> <p>T: これは何ですか。 S: 箸です。 T: そうです。箸でお弁当を食べます。 箸を持ちます。 [Tが箸の持ち方の手順を見せる。Sも練習する]</p> <p>練習 ア. 箸で消しゴムをつかむ。Tが見本を見せる。 イ. 制限時間1分で、皿から別の皿へ、消しゴムを箸で移すゲームをする。</p>	<p>箸の使い方の説明資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皿 ・子ども用の箸 ・消しゴム（または、軽くて丸いポンポンなど、つかみやすいもの）
<p>その他の活動例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物の一部を拡大した画像を見せ、どんな食べ物か当てる。 ・食べ物カードを使って神経衰弱を行う。文字が十分に読めるようなら、食べ物カードと名前のカードを合わせるゲームをする。 ・実際に簡単なお弁当を用意して、箸で食べる。 	
<p>宿題の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で保護者と一緒にお弁当を作る。 ・家庭で箸の持ち方を練習する。箸でご飯を食べてみる。 	
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物の名前は、地域や子どもの日本語レベルに応じて変えたり、追加したりする。 ・プレスクールの課外活動として、保護者も交えた遠足体験や、お弁当パーティを企画してもよい。参加者各国のお弁当を持ち寄って紹介し合うなどしてもよい。 	
<p>参考教材</p>	<p>「プレスクール実施マニュアル」(2009), 愛知県, p193, 活動例 25<カラフルポンポン> 「親と子のおはなしハンドブック」(2015), MIEF</p>	
<p>保護者の方へ伝えること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お弁当は栄養のバランスを考えて、食べられる量だけを入れるようにする。 ・学校によって、遠足へ持って行っていい食べ物、調理法（特に腐敗しやすい夏は要注意）等の決まりがあるので、事前に確認する。 ・必ず日本式のお弁当でなければいけないわけではない。自国の食文化も大事にする。 ・給食では箸を使うので、家庭でも箸の使い方に慣れるように練習する。 ・遠足には保護者やペットは同行できない。 	

6. プレスクール案内書例

ねん がつ しょうがっこう にゅうがく ほごしゃ かた
～〇〇〇〇年4月に小学校へ入学する子どもの保護者の方へ～
しょうがっこう し じゅんび
小学校のことを知って、みんなで準備をしましょう！

きょうしつ あんない 〇〇教室のご案内



しょうがっこう はい まえ にほん がっこう じゅんび し
小学校に入る前に、日本の学校のルールや 準備のことを 知りましょう。

きょうしつ さんか しょうがっこうせいかつ はじ
〇〇教室に参加して、小学校生活を うまく 始めることが できるよう
にしましょう。

たいしょう ねん がつ しょうがっこう にゅうがく こ にんていど
対象：〇〇〇〇年の4月に小学校へ入学する子ども（ 人程度）

ばしょ
場所：

きかん ねん がつ にち がつ にち
期間： 年 月 日～ 月 日〇〇：〇〇～〇〇：〇〇

かね い
・ プレスクールのお金は要りません。

さんかもうしこみしょ がつ にち だ
・ 参加申込書を 月 日（ ）までに出してください。

しよるい もう こ かみ だ
・ 書類（申し込みの紙）を出すところ：

かかり ひと
係の人：

TEL：

MAIL：

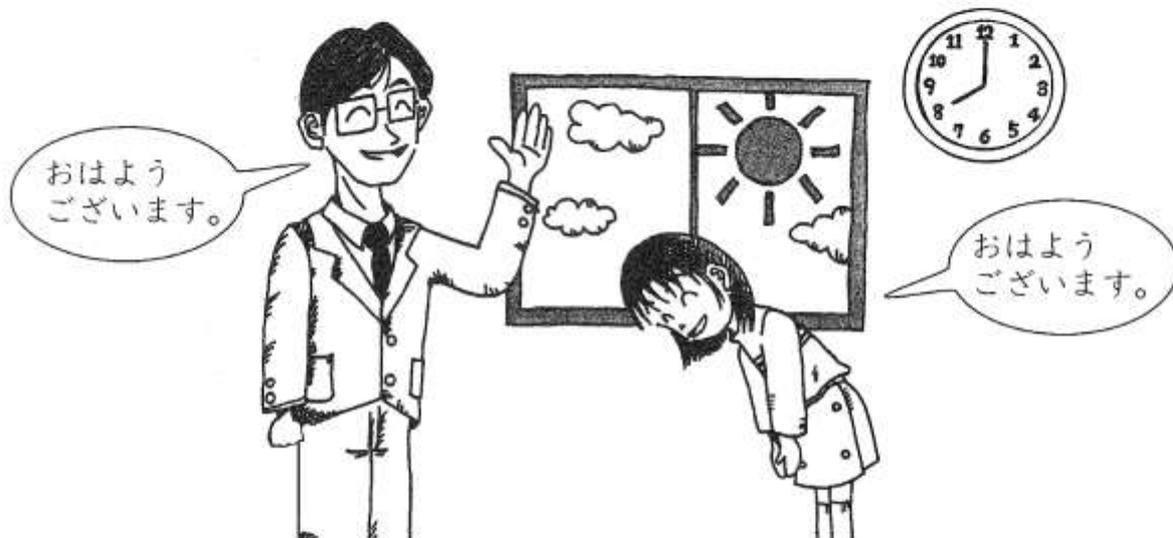
しつもん とき でんわ
※質問がある時は、〇〇さんへ電話か、メールをしてください。

年齢	過ごしていた場所	
0歳～1歳	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> その他の国	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 日本の保育所・認定こども園 <input type="checkbox"/> その他の国の幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 外国人向け託児所 <input type="checkbox"/> その他（ ）
1歳～2歳	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> その他の国	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 日本の保育所・認定こども園 <input type="checkbox"/> その他の国の幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 外国人向け託児所 <input type="checkbox"/> その他（ ）
2歳～3歳	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> その他の国	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 日本の保育所・認定こども園 <input type="checkbox"/> その他の国の幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 外国人向け託児所 <input type="checkbox"/> その他（ ）
3歳～4歳	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> その他の国	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 日本の幼稚園・保育所・認定こども園 <input type="checkbox"/> その他の国の幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 外国人向け託児所 <input type="checkbox"/> その他（ ）
4歳～5歳	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> その他の国	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 日本の幼稚園・保育所・認定こども園 <input type="checkbox"/> その他の国の幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 外国人向け託児所 <input type="checkbox"/> その他（ ）
5歳～6歳	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> その他の国	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 日本の幼稚園・保育所・認定こども園 <input type="checkbox"/> その他の国の幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 外国人向け託児所 <input type="checkbox"/> その他（ ）
1. お子さんは同居する人と何語を話していますか？		
父親とは…………… <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他の言語（ ） <input type="checkbox"/> 日本語とその他の言語（ ）		
母親とは…………… <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他の言語（ ） <input type="checkbox"/> 日本語とその他の言語（ ）		
兄弟姉妹とは……… <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他の言語（ ） <input type="checkbox"/> 日本語とその他の言語（ ）		
（ ）とは……… <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他の言語（ ） <input type="checkbox"/> 日本語とその他の言語（ ）		
2. お子さんは家では何をして過ごしていますか？（複数回答可）		
<input type="checkbox"/> 兄弟姉妹と遊ぶ（何をしますか）（ ）		
<input type="checkbox"/> 家の手伝いをする（何をしますか）（ ）		
<input type="checkbox"/> おもちゃで遊ぶ（誰と・・・ <input type="checkbox"/> 兄弟姉妹と <input type="checkbox"/> 父母と <input type="checkbox"/> 一人で）		
<input type="checkbox"/> ゲームをする（誰と・・・ <input type="checkbox"/> 兄弟姉妹と <input type="checkbox"/> 父母と <input type="checkbox"/> 一人で）		
<input type="checkbox"/> テレビや動画を見る		
（何語で・・・ <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他の言語（ ） <input type="checkbox"/> 日本語とその他の言語（ ））		
<input type="checkbox"/> その他（ ）		
3. お子さんに絵本を読んであげることがありますか？		
<input type="checkbox"/> 毎日 <input type="checkbox"/> 時々 <input type="checkbox"/> あまりない <input type="checkbox"/> ない		
4. お子さんにアレルギーはありますか？		
<input type="checkbox"/> あります（ ） <input type="checkbox"/> ありません		
5. 同居している家族のなかで、日本の学校の経験がある方がいますか？		
<input type="checkbox"/> 父 <input type="checkbox"/> 母 <input type="checkbox"/> 兄弟姉妹（学校名： ） <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> いない		
6. お子さんの発達について、気になることはありますか？		
7. その他（教室及び学校への要望など）		

8. 教材集 p.16 から p.35 までの教案例と一緒に使える、教材集です。

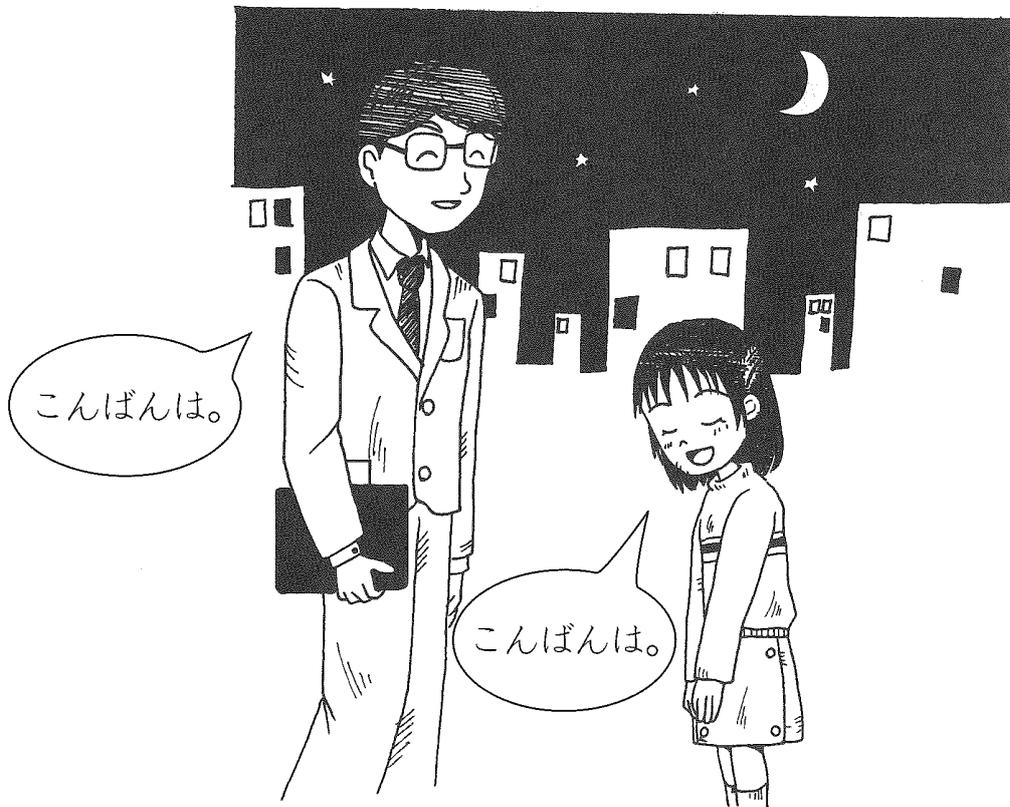
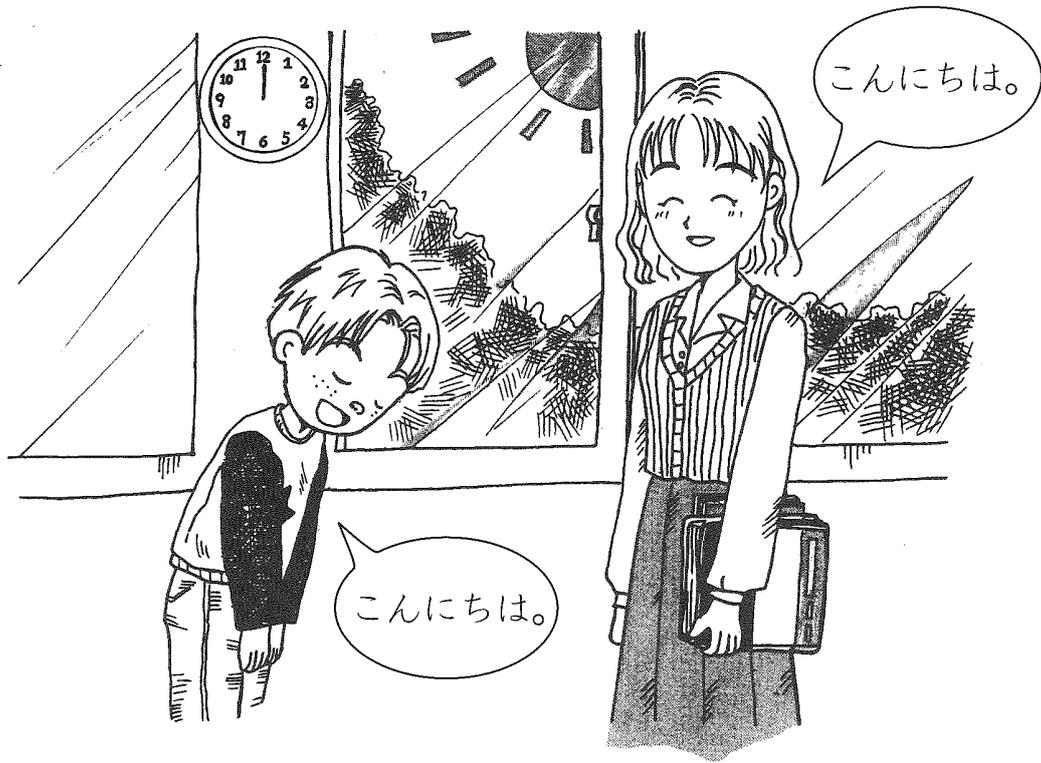
出典	出典先のページ	ユニット番号
「プレススクール実施マニュアル」 (2009), 愛知県	p.180-183 (もちものシート)	ユニット3
	p.193 (カラフルポンポン)	ユニット10
「新版いっしょにまなぼう みえこさんのにほんご (2007), (公財) 三重県国際交流財団 (MIEF)	p.9-11 (あいさつ)	ユニット1
	p.13 (わたしはみえこです)	
	p.20 (これはいすです) p.32 (ここはたいいくかんです)	ユニット5
	p.112 (きょうは大そうじです)	ユニット7
「みえこさんのにほんご れんしゅうちょう1」(2011), (公財) 三重県国際交流財団 (MIEF)	p.3-5 (せんどのれんしゅう)	ユニット2
「みえこさんのにほんご 名詞の絵カード100」(2007), (公財) 三重県国際交流財団 (MIEF)	「えんぴつ」「けしごむ」「はさみ」「のり」	ユニット2
	「しんごう」	ユニット5
	「ぞうきん」「ほうき」「ちりとり」	ユニット7
	「はし」	ユニット10
「形容詞の絵カード50」(2014), (公財) 三重県国際交流財団 (MIEF)	「いたい」	ユニット9
かわいいフリー素材集 いらすとや https://www.irasutoya.com/ (参照: 2020-2-14)	「横断歩道のイラスト」	ユニット4
	「トイレ・便器のイラスト」	ユニット5
	「和式トイレ・和式便器のイラスト」	
	「給食を着た男の子のイラスト (マスクあり)」 「給食を着た女の子のイラスト (マスクあり)」 「配膳された給食のイラスト」	ユニット6
	「掃除をしている子どもたちのイラスト」	ユニット7
	「ドッジボールのイラスト (男女)」 「縄跳びで飛ぶ子どものイラスト (男の子)」 「縄跳びで飛ぶ子どものイラスト (女の子)」 「体育座りをする男の子のイラスト」 「体育座りをする女の子のイラスト」 「紅白帽・赤白帽のイラスト」	ユニット8
	「男の子の顔のアイコン」「女の子の顔のアイコン」	ユニット9
	「お弁当のイラスト (かわいいお弁当箱)」 「遠足のイラスト (リュックを背負った男の子)」 「遠足のイラスト (リュックを背負った女の子)」 「遠足のイラスト (お弁当・男の子・女の子)」	ユニット10

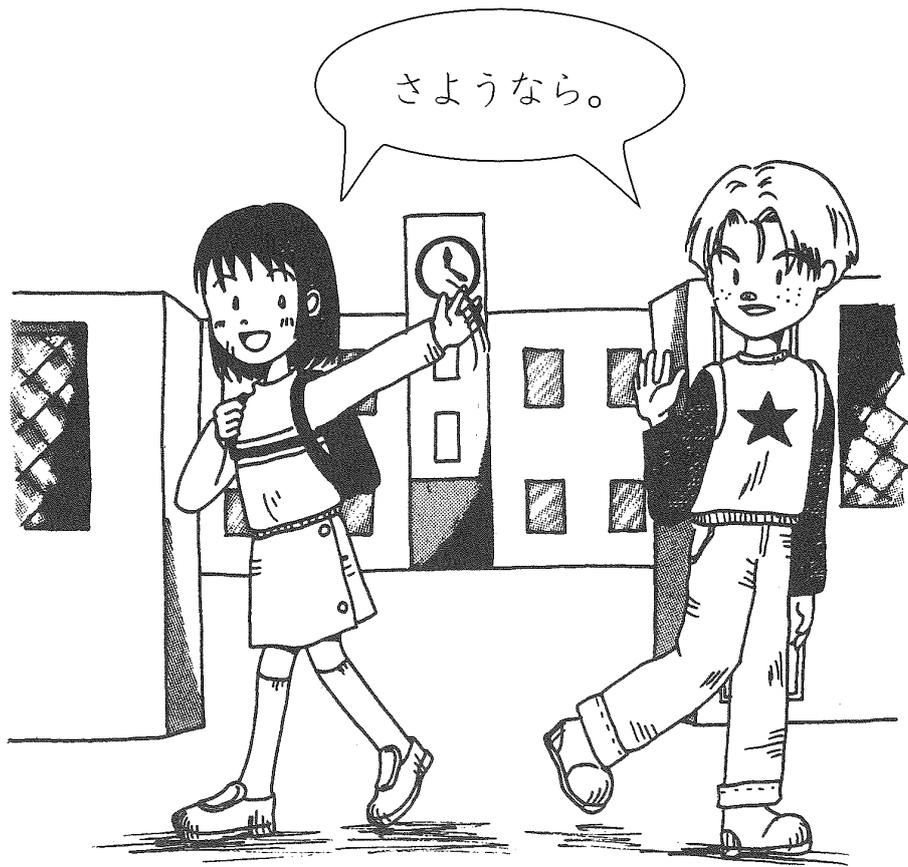
1か あいさつ



ポルトガル語：Cumprimento.

スペイン語：Saludos.





2か わたしは みえこです



わたしは① みえこです。 わたしは トムです。



こんにちは。
わたしは みえこです。



こんにちは。
わたしは トムです。

ポルトガル語: Eu sou Mieko.

スペイン語: Yo soy Mieko.

ステップ1



1) せんの れんしゅう

1. 1) 4) • ★

2) • 5) • ★

3) • ★ 6) • ★

2. 1) 2) 3) • ★

4) • ★ 5) • ★ 6) • ★

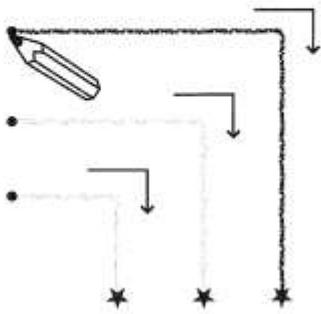
3. 1) 2) 3) • ★

4) • ★ 5) • ★ 6) • ★

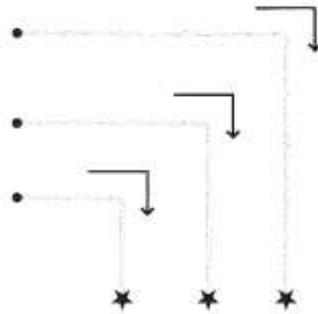
4. 1) 2) 3) • ★

4) • ★ 5) • ★ 6) • ★

5. 1)



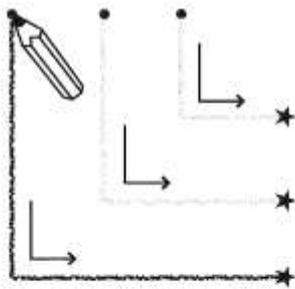
2)



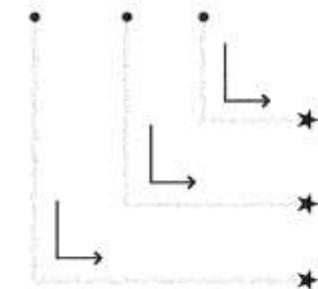
3)



6. 1)



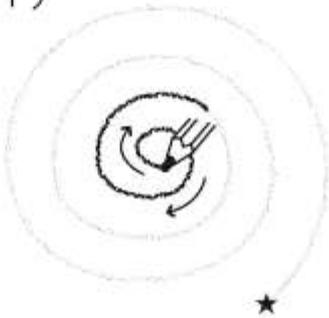
2)



3)



7. 1)



2)



3)



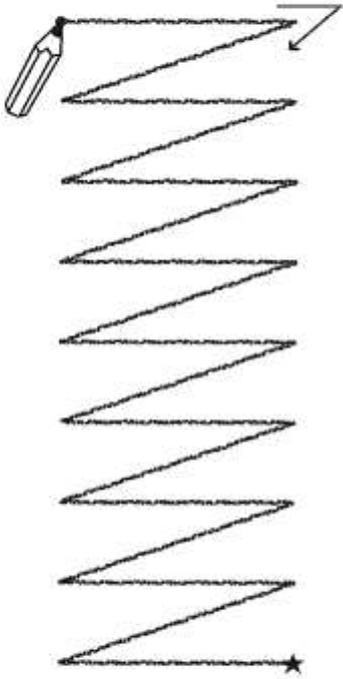
8. 1)



2)



9. 1)



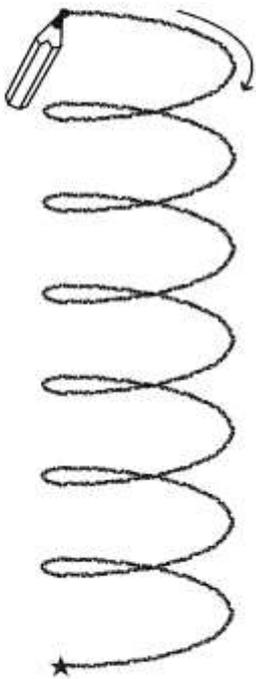
2)



3)



10. 1)



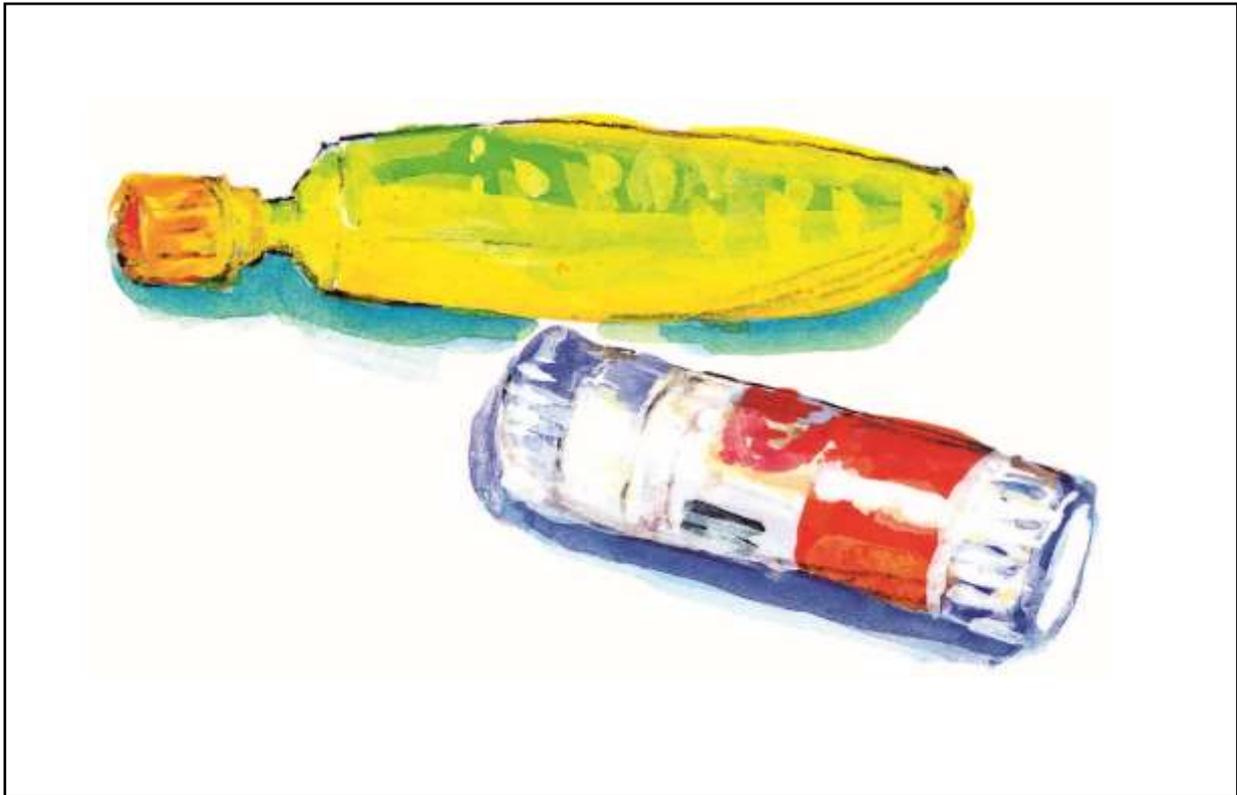
2)



3)

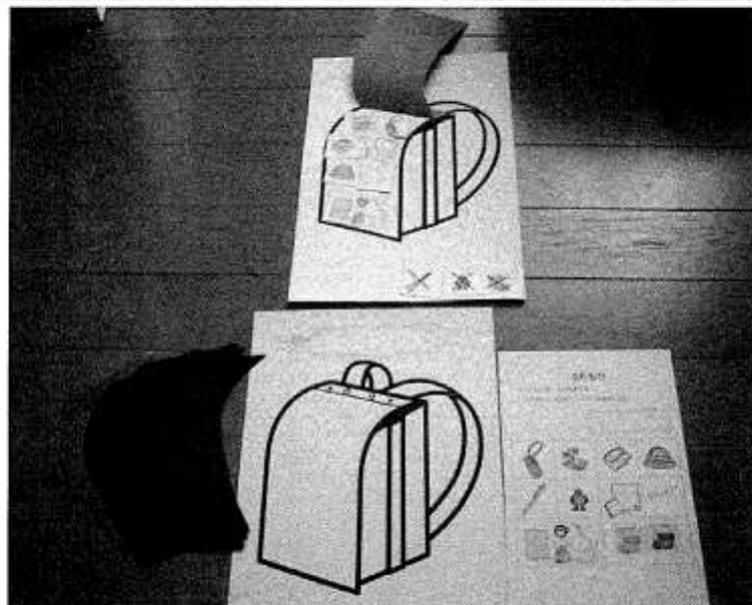






ユニット3 学校へ行こう【持ち物編】

<p>かつどうれい 活動例16</p>	<p><「もちもの」シート> 学校生活：学校で使われる文房具や生活道具を知る</p>	<p>ひとり 1人～ 30分程度</p>
<p><準備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もちものシートNO. 1 ・もちものシートNO. 2 (ランドセルのふたの部分カラーで用意する) 		
<p><活動例></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「もちものシートNO. 1」で、学校に持って行ってよいもの、悪いものを確認します。特に指導したい「ハンカチ、ティッシュは忘れないこと」や、「お菓子、おもちゃは持ってきてはダメ」という確認します。 ② 持ってきてはいけないものには×を書き、切り取り線をハサミで切ります。 ③ 学校の持ち物は「もちものNO. 2」のランドセルの中に貼り、持って行ってはいけないものはランドセルの外に貼ります。 ④ 出来上がったら、最後にランドセルのふたを貼って、出来上がりです。 		
<p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち物シートを使って、工作をたのしみながら、学校に持って行ってよいものと悪いものが分かります。 ・体験入学を行うときは、ロッカーや机を見せ、持ち物を置くという説明をします。 ・保護者に、持ち物全部に名前を書く必要があることと、保護者自身が子どもの名前を日本語で書けるようにすることを伝えます。 		



もちものシート NO. 1

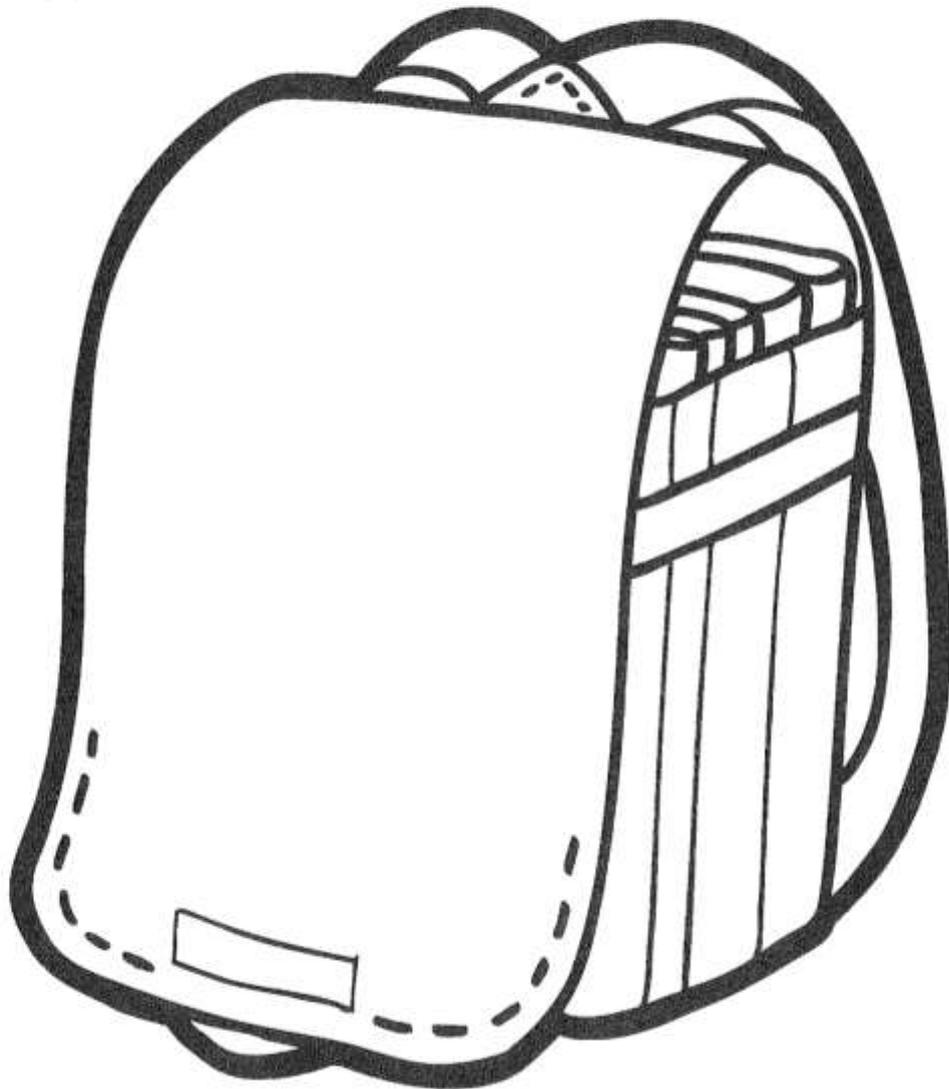
😊 がっこうに もっていくものに ○を つけましょう。
☹ がっこうに もって行っては いけないものに ×を
つけましょう。



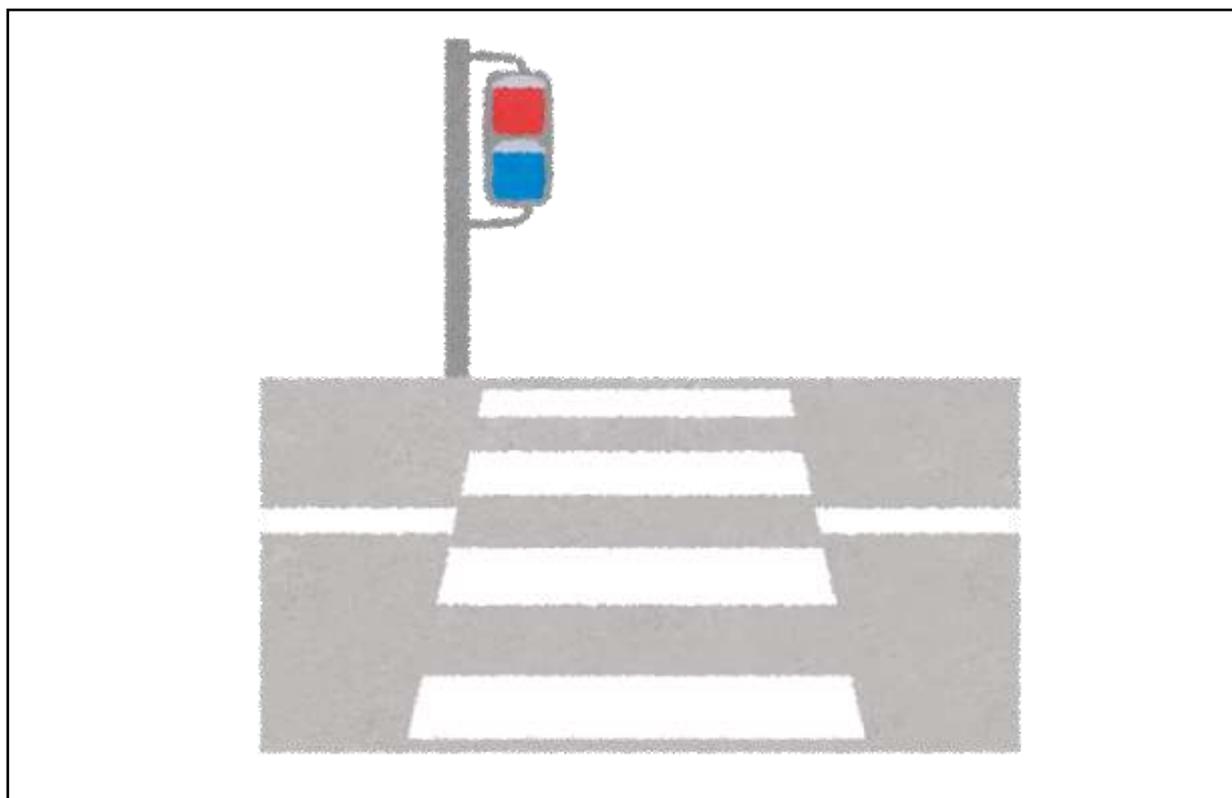
もちものシート NO. 2

なまえ

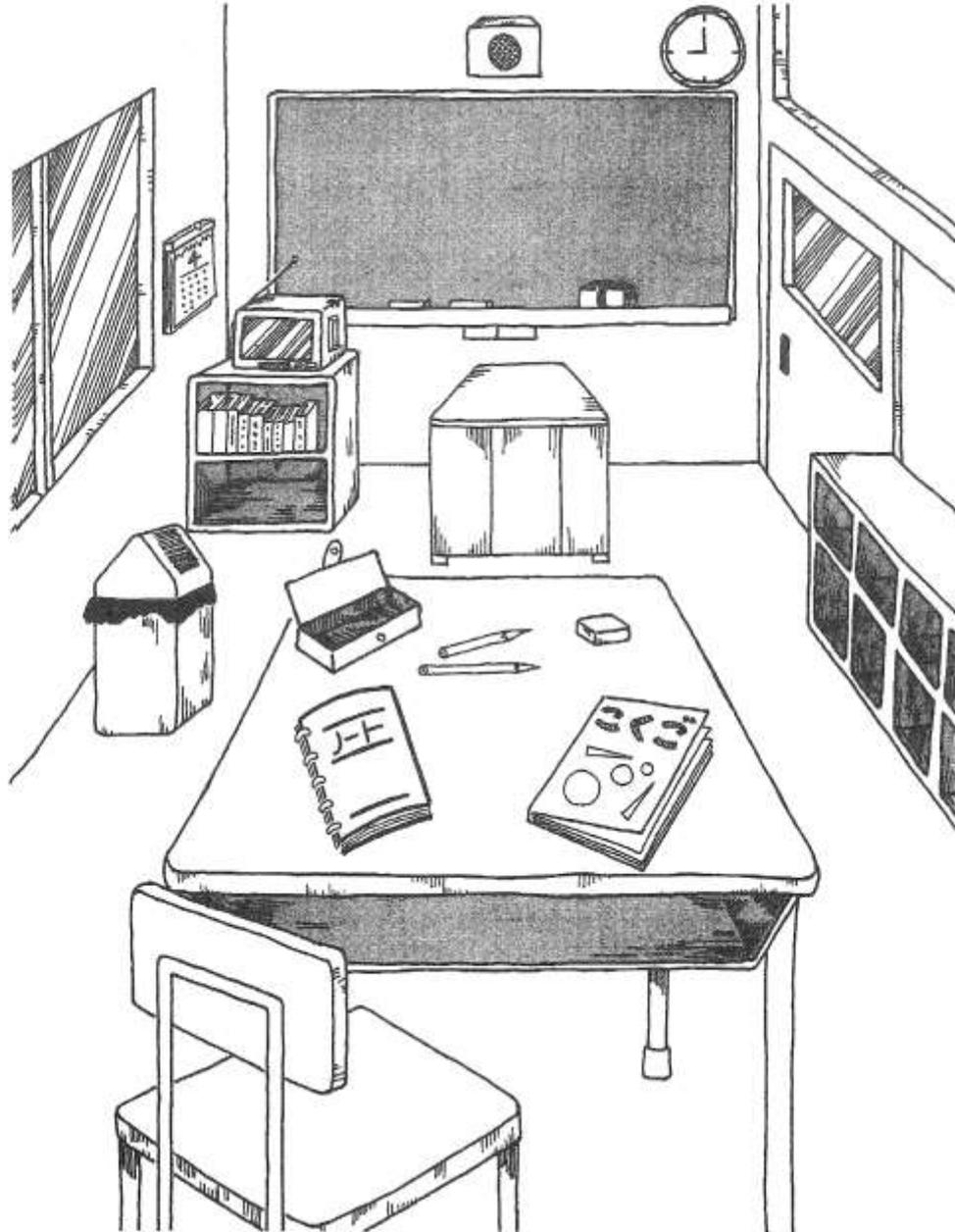
😊 がっこうに もっていくものを かばんの なかに
はりましょう。



ユニット4 学校へ行こう【交通ルール編】



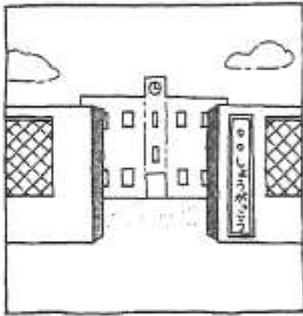
4か これは いすです



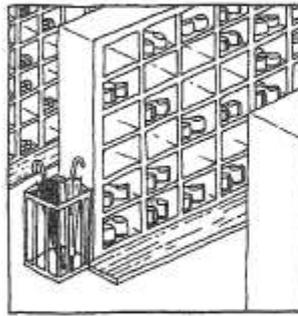
ポルトガル語: Isto é uma cadeira.

スペイン語: Ésta es una silla.

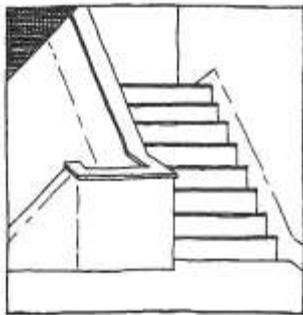
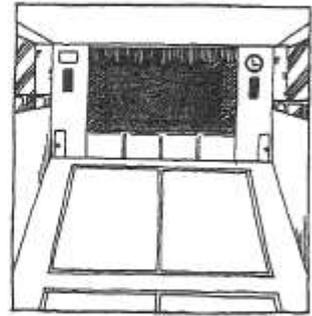
7か ここは たいいくかんです



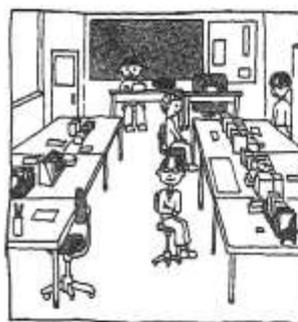
ここは 校もんです。
こ_う



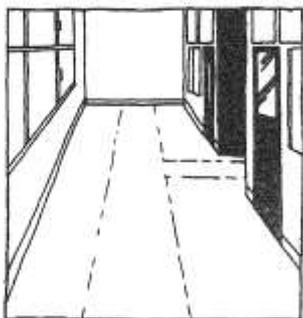
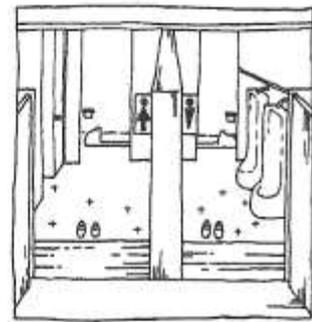
ここは しょうこうろです。ここは たいいくかんです。
ぐ_ち



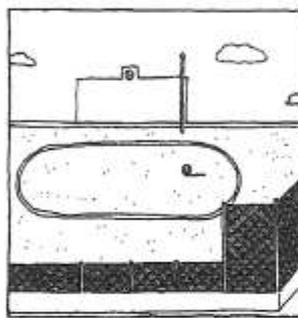
ここは かいだんです。



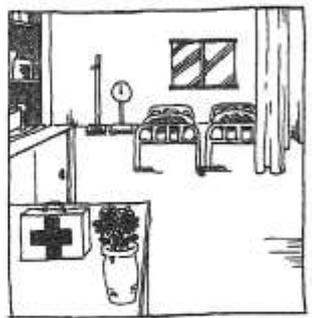
ここは しょくいんしつです。ここは トイレです。



ここは ろう下です。
か

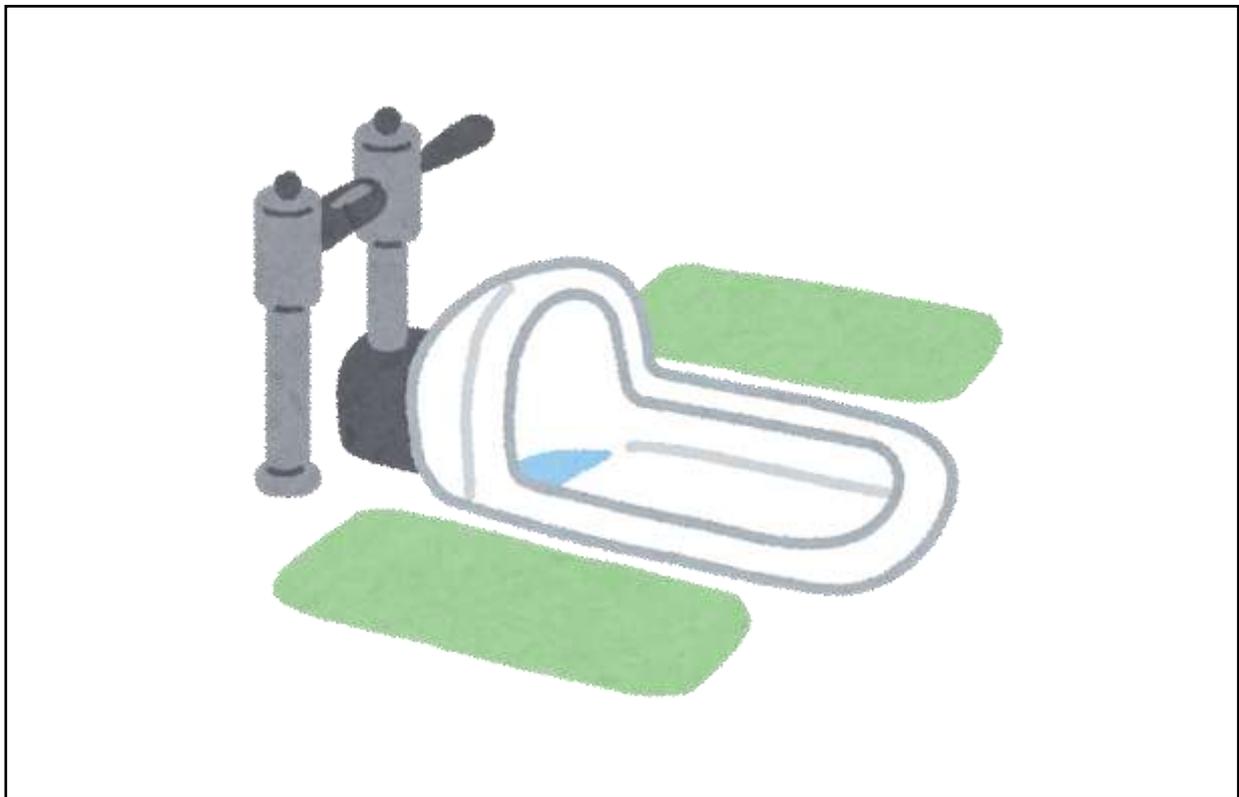


ここは うんどうじょうです。ここは ほけんしつです。



ポルトガル語: Aqui é a quadra de esportes.

スペイン語: Aquí es el salón de deportes.



ユニット6 給食を食べよう



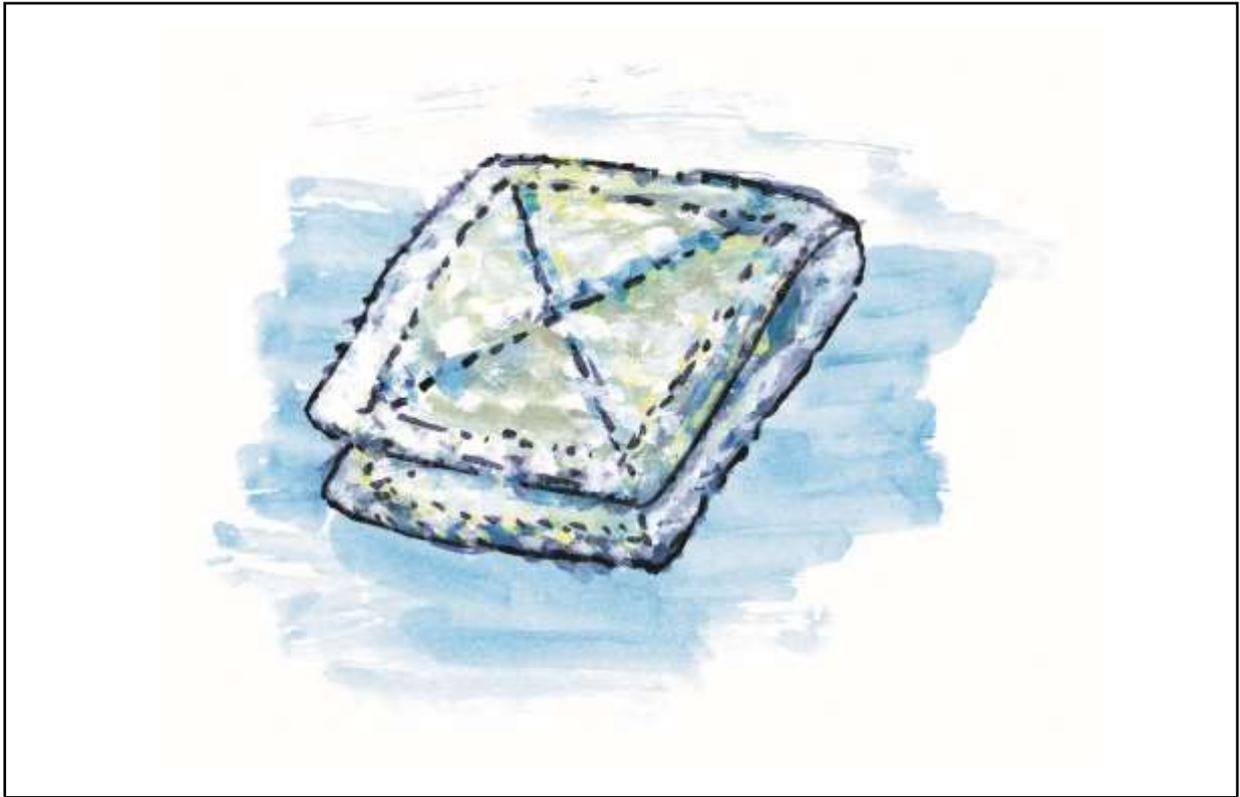
きょうは おお 大そうじです。

みんなは なにを して いますか。



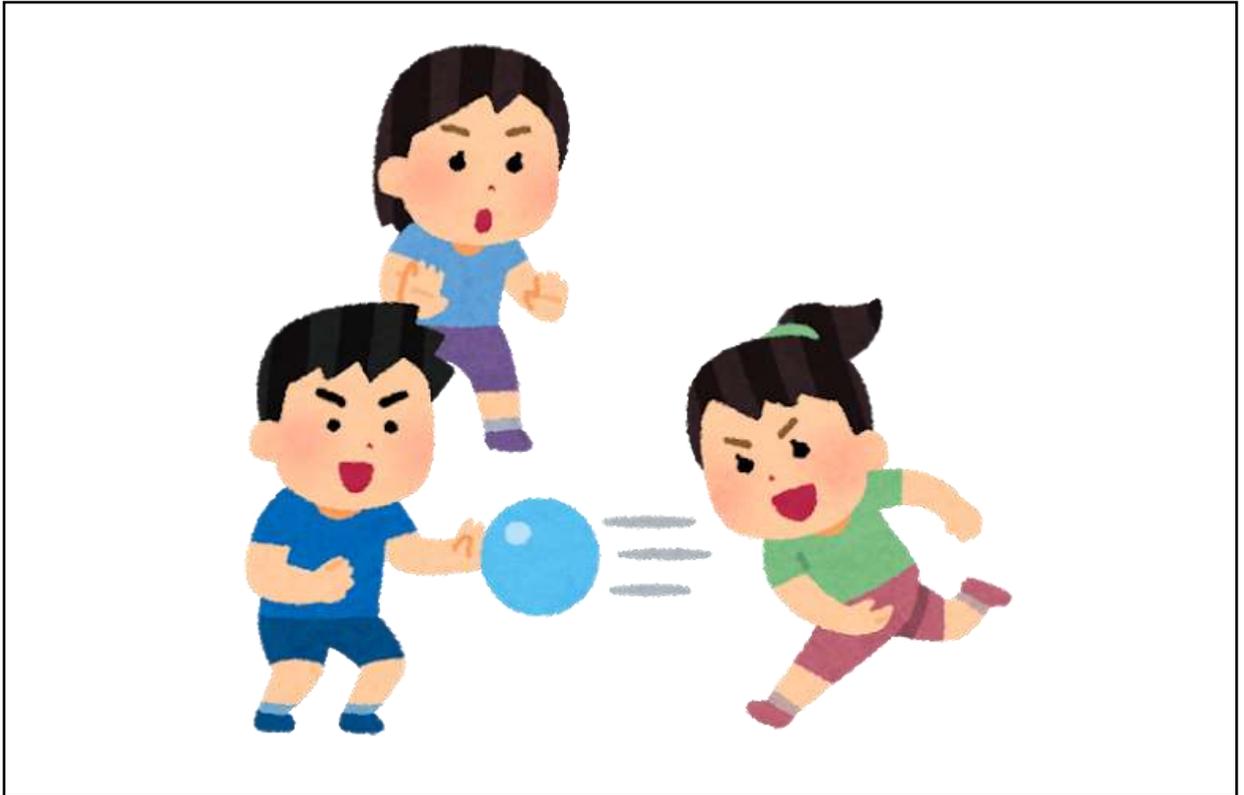
みえこさんは ほうきで はいて います。

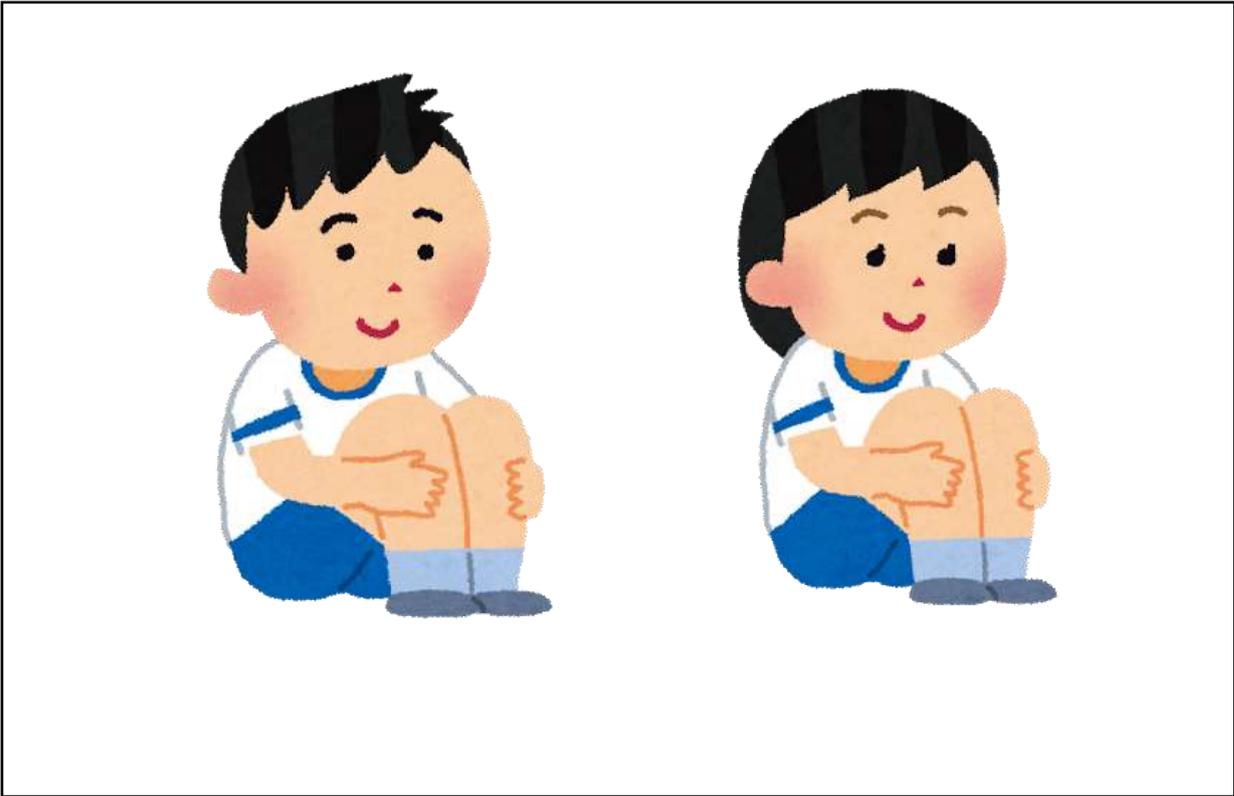
ルイスさんは つくえを はこんで います。



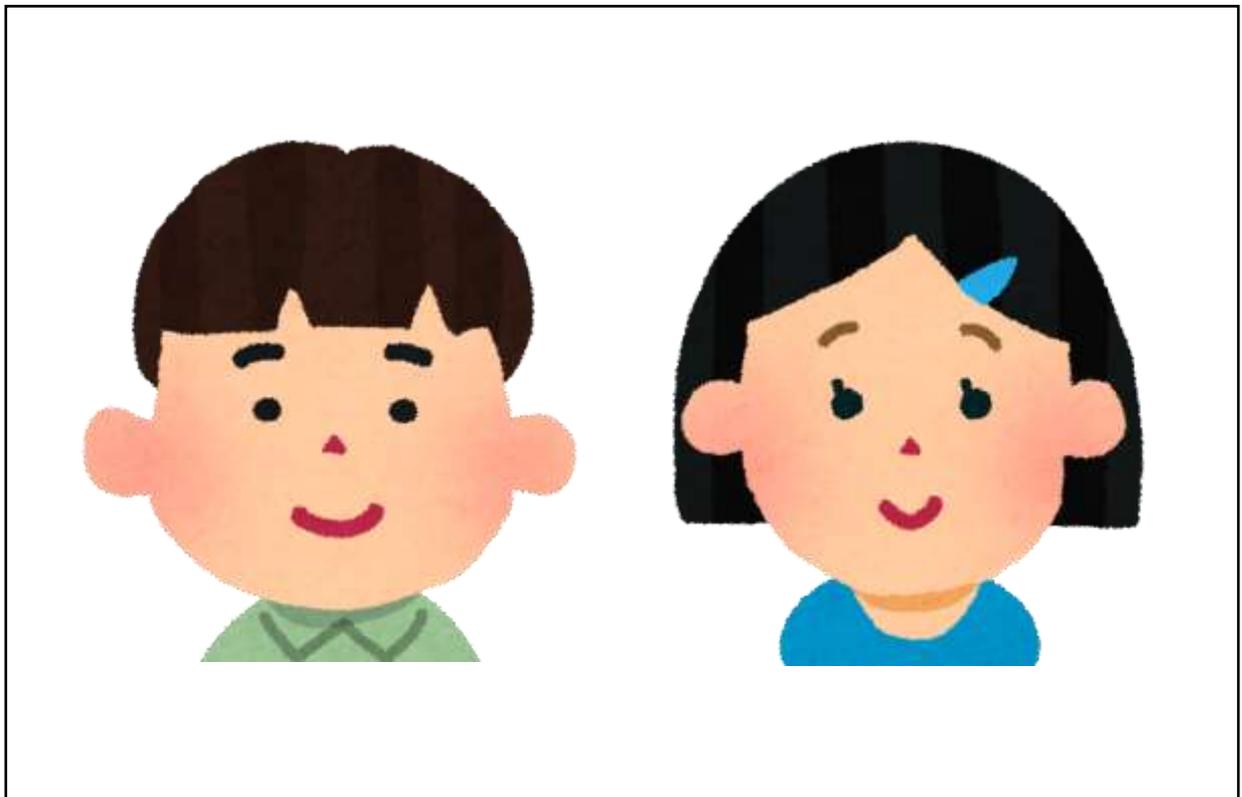
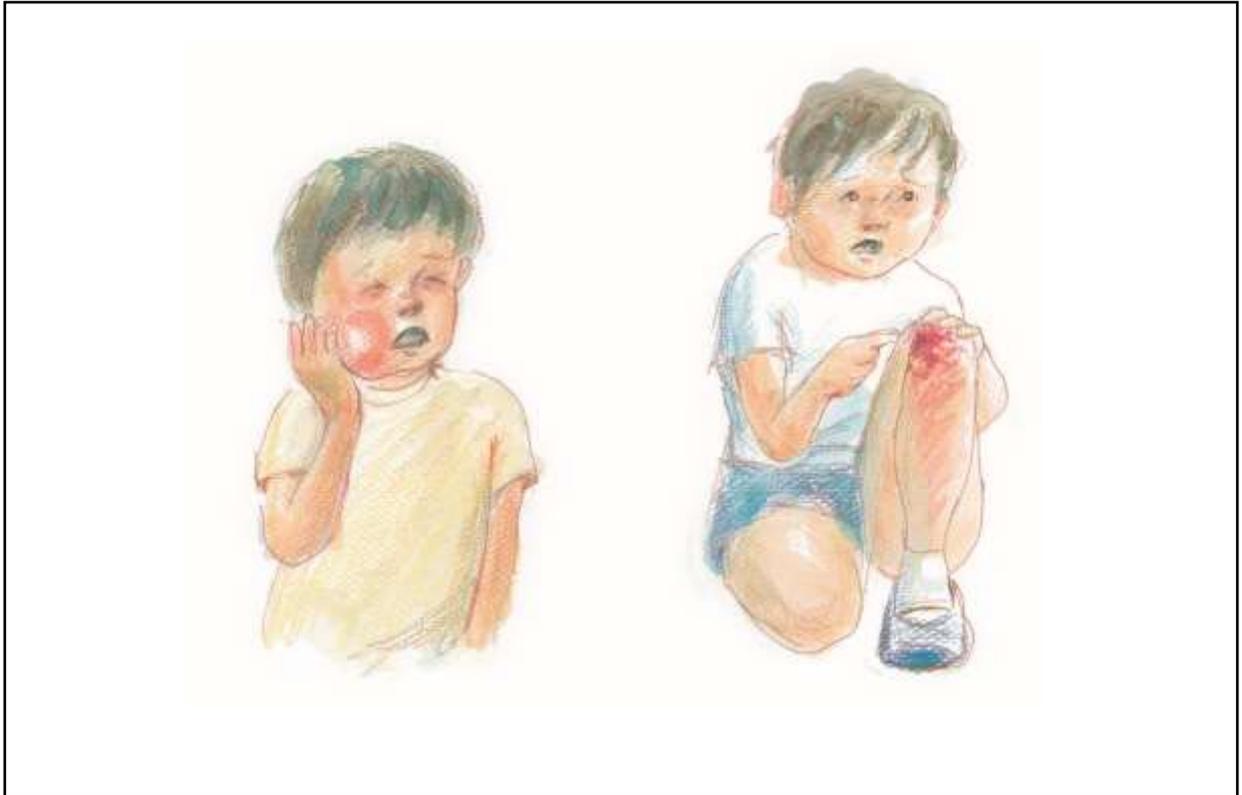


ユニット8 元気に動こう





ユニット9 体の名前を覚えよう



ユニット10 お弁当を作ろう

<p>かつどうれい 活動例25</p>	<p><カラフルポンポン> 学校生活：箸の使い方 色、状態を表すことば 算数：数と量の一致</p>	<p>ひとりの～5人程度 ぶんでいど 10分程度</p>
<p><準備> ・箸 ・お椀 ・適当な大きさ、重さ、箸でつまみやすい素材のポンポンを用意</p>		
<p><活動例> STEP 1 (箸の使い方練習) ・お椀をふたつ用意し、箸を使ってポンポンをお椀からお椀へ、移す練習をします。 ・箸でつまみやすい大きさ、重さ、素材のポンポンから練習を始め、徐々に小さいものや、滑りやすいものなどに難度をあげていきます。 ・時間を計って、決まった時間内にいくつ移すことができるかなどの競争をするのも楽しいでしょう。 STEP 2 (色や数の練習) ・複数の色をひとつのお椀へ入れて、「赤だけ出してください。」 ・複数の色のポンポンを机に山積みにし、「緑を1こ、先生にください。」「黄色を2こ、〇〇ちゃんにあげてください。」など、色や数の練習もできます。 STEP 3 (状態を表す言葉や、オノマトペの導入) ・素材や質感の違うものを用意して、「ふわふわのを先生にください。」「つるつるのを先生にください。」などの活動もできます。</p>		
<p><ポイント> ・箸を使った経験がない子どもも楽しんで活動できます。 ・子どもはカラフルなものを喜びます。準備は簡単にできますが、体を使う活動で、集中できます。数、色、状態を表す言葉、オノマトペなども一緒に学ぶことができます。</p>		





9. 保護者の方へ

(1) 子どもの教育で知っておいてほしいこと

◇子どもの長期的な進路を考え、教育にかかるお金について、計画を立てておきましょう。

◇学校は子どもが勉強をするところですが、親が色々な相談をすることもできます。日本の生活、子育ての方法、子どもの勉強や進路で分からないことは、学校の先生に質問しましょう。

◇長期の欠席や突然の転籍は、子どもの学習や成績に影響します。保護者は子どもの教育のことを考えて、仕事やライフプランを考えましょう。

(2) 母語の発達が日本語の習得に影響を与えます。

保護者は家の中で“自分が自信を持てる言語”を使って子育てしましょう。

2言語の到達度による分類(カミンズ) (中島 2016:7)



1つの車輪でも行けるよ……



大きな車輪と小さな車輪でもいいよ……



でも、車輪がバランスが取れていて、よく膨らんでいれば、もっと遠くまで行ける……



でも、もちろんこうならなければ

(Cummins, 1985: 10 をもとに作成したもの。筆者訳)
イラスト：川手文子

※「母語」と「継承語」

(Skutnabb-Kangas 1981)

「母語」とは、一番初めに覚え、最もよく理解でき、最も頻繁に使用し、アイデンティティが持て、人からも母語話者だと思われる言語。

到達度が「母語」とは言えない場合は「継承語」と呼ばれます。

自転車の絵は、2言語の到達度と認知面との関係を分かりやすく示したものである。

「1つの車輪があればもちろん困らない(モノリンガル)、また大きい車輪と小さい車輪があれば、1つの車輪よりは遠くへ行ける(部分的バイリンガル)。しかし、2つの車輪がバランスがとれていてよく膨らんでいけばもっと遠くまで行ける(高度バイリンガル)。でも、2つ車輪があっても空気が抜けていると、どこへも行けない(ダブルリミテッド)」(中島 2010)

出典：『完全改訂版 バイリンガル教育の方法 -12歳までに親と教師ができること-』(2016), 中島和子

『マルチリンガル教育への招待 言語資源としての外国人・日本人年少者』(2010), 中島和子

9. Para pais e responsáveis

Português (ポルトガル語翻訳版)

(1) O que gostaríamos que soubessem sobre a educação das crianças

- ◇Vamos pensar na trajetória a longo prazo na educação da criança, e fazer um plano sobre os gastos necessários com a educação.
- ◇A escola é um lugar onde as crianças estudam, mas os pais também podem fazer várias consultas. Vamos perguntar ao professor da escola, quando temos dúvidas em relação a vida cotidiana no Japão, maneira de criar os filhos, sobre os estudos e futuro educacional da criança.
- ◇Faltas a longo prazo(contínuas), transferências repentinas de escola, poderá afetar o aprendizado da criança e suas notas(boletim). Os pais e responsáveis devem traçar um plano de trabalho e vida, pensando na educação das crianças.

(2) O desenvolvimento da língua materna tem uma influência muito importante na aprendizagem da língua japonesa.

Pais e responsáveis vamos usar a língua materna (a língua que os pais dominam com confiança) na criação de seus filhos.

9.Sa mga magulang

Filipino (フィリピン語翻訳版)

(1)Mga bagay na kailangan ninyong malaman tungkol sa edukasyon ng bata.

- ◇ Kung iisipin ang mahabang panahong gugugulin sa pag-aaral ng bata, makabubuting planuhing ang halagang maaaring magastos sa pagpapa-aral.
- ◇Ang paaralan ay lugar para sa pag-aaral ng bata, subalit maaari ding kumunsulta ang magulang tungkol sa ibat ibang bagay. Magtanong sa guro kung hindi alam ang tungkol sa pamumuhay sa Japan, paraan ng pagpapalaki ng bata, pagpapatuloy ng pag-aaral at iba pang bagay.
- ◇Makakaapekto sa pag-aaral ng bata ang matagalang pagliban sa klase o biglaan paglipat ng paaralan. Sa pagtatrabaho at paraan ng pamumuhay, pag-isipan at isalang-alang ang edukasyon ng bata.

(2)Ang pagtataguyod ng inang wika ay may epekto sa pag-aaral ng bata ng Japanese.

Sa loob ng bahay, palakihin ang bata sa sariling wika na sanay gamitin ng magulang.

10. 主な参考資料

インターネット
<ul style="list-style-type: none"> ・「プレスクール実施マニュアル」(2009), 愛知県 https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/0000028953.html (参照 2020-2-14)
<ul style="list-style-type: none"> ・「外国人幼児向け日本語学習教材たのしい1ねんせい」(2016), 愛知県 https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/249353_820355_misc.pdf (参照 2020-2-14)
<ul style="list-style-type: none"> ・「1年生になるまえに入学の手引き」(保護者用)(2016), 愛知県 https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/249353_820356_misc.pdf (参照 2020-2-14)
<ul style="list-style-type: none"> ・「あいち多文化子育てブック～あいちで子育てする外国人のみなさまへ～」(2018), 愛知県 https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/kosodate-book.html (参照 2020-2-14)
<ul style="list-style-type: none"> ・「就学前の子ども向け生活習慣チェックシート」 三重県教育委員会 小中学校教育課 http://www.pref.mie.lg.jp/GAKOKYO/HP/m0205100034_00001.htm (参照 2020-2-14)
<ul style="list-style-type: none"> ・「岐阜県可児市におけるプレスクール実施報告」(2015), (特非) 可児市国際交流協会 https://www.gic.or.jp/upload/docs/H26preschool_manual.pdf (参照 2020-2-14)
<ul style="list-style-type: none"> ・「母語の大切さをご存知ですか? - 海外での日本語の保持と発達 -」(2018), (公財)海外子女教育振興財団 https://www.joes.or.jp/cms/joes/pdf/kojin/bogo-pam.pdf (参照 2020-2-14)
<ul style="list-style-type: none"> ・NHK どーがレージ https://www.nhk.or.jp/d-garage/ (参照 2020-2-14)
<ul style="list-style-type: none"> ・NHK for school https://www.nhk.or.jp/school/ (参照 2020-2-14)
<ul style="list-style-type: none"> ・MONICA AND FRIENDS 日本の小学校 http://mspjapan.co.jp/2019/08/16/日本の小学校-a-escola-no-japao/ (参照 2020-2-14)
書籍
<ul style="list-style-type: none"> ・「にほんごを まなぼう」(1991), 文部科学省
<ul style="list-style-type: none"> ・「こどもにほんご宝島」(2009), アスク出版社
<ul style="list-style-type: none"> ・「ひと目でわかる! 教室で使うみんなのことば 学校の日」(2017), 文研出版
<ul style="list-style-type: none"> ・「がっこうたんけん しょうがっこうだいかん」(2016), 金の星社
<ul style="list-style-type: none"> ・「1ねん1くみの1にち」(2010), アリス館
<ul style="list-style-type: none"> ・「完全改訂版 バイリンガル教育の方法 -12歳までに親と教師ができること-」(2016), 中島和子, アルク
<ul style="list-style-type: none"> ・「マルチリンガル教育への招待 言語資源としての外国人・日本人年少者」(2010), 中島和子, ひつじ書房
<ul style="list-style-type: none"> ・「ことばが通じなくても大丈夫! 学級担任のための外国人児童生徒サポートマニュアル」(2014), 臼井 智美, 明治図書
<ul style="list-style-type: none"> ・「新版いっしょにまなぼう みえこさんのにほんご」(2007), (公財) 三重県国際交流財団 (MIEF)
<ul style="list-style-type: none"> ・「みえこさんのにほんご れんしゅうちょう1」(2011), (公財) 三重県国際交流財団 (MIEF)
<ul style="list-style-type: none"> ・「みえこさんのにほんご 名詞の絵カード100」(2007), (公財) 三重県国際交流財団 (MIEF)

初期日本語教材 みえこさんののにほんごシリーズ

外国につながる子どもたちの日本語指導に
「みえこさん」をご活用ください



みえこさんののにほんご 3つの特徴

にほんごの凡人社
(<http://www.onjinsha.com/>)
でネットでもお求め
いただけます。「三
重県国際交流財団」
で検索してください。

1 外国につながる子どもたちが、学校生活をおくる上で必要な日本語をとりあげています。

2 学習項目をやさしいものから難しいものへ配列しています。

3 テキストの巻末に、基本文型や主要言葉のポルトガル語、スペイン語、中国語、韓国語、タガログ語、タイ語を掲載しています。

教材のご案内



◆みえこさんののにほんごテキストと
れんしゅうちょう



◆みえこさんののにほんご



◆指導書



(上から)
◆動詞の絵カード
◆形容詞の絵カード

(公財) 三重県国際交流財団

ご注文・詳細は



〒514-0009

三重県津市羽所町700番地アスト津3階 ☎ 059-223-5006

HPはこちら ➡ http://www.mief.or.jp/jp/mief_kyoza.html

プレスクール実施マニュアル等作成会議

作成委員名簿

作成委員（敬称略）	
キャリブ マリシエル チャベス	三重県教育委員会事務局 小中学校教育課 小中学校教育班 外国人児童生徒巡回相談員
田中 レオニセ	高茶屋日本語教室「がんばる会」代表
中谷 優一	松阪市教育委員会事務局 学校支援課 松阪市子ども支援研究センター 指導主事
服部 明子	国立大学法人三重大学教育学部 准教授
船見 和秀	伊賀市外国人児童生徒日本語指導コーディネーター
増地 万紀子	津市教育委員会事務局人権教育課 人権教育担当副主幹・指導主事
事務局	
三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課多文化共生班 公益財団法人三重県国際交流財団	

<検討経過>

令和元（2019）年 10月7日（月） 第1回プレスクール実施マニュアル等作成会議開催

11月6日（水） 第2回プレスクール実施マニュアル等作成会議開催

11月22日（金） 第3回プレスクール実施マニュアル等作成会議開催

12月26日（木） 第4回プレスクール実施マニュアル等作成会議開催

令和2（2020）年 1月24日（金） 第5回プレスクール実施マニュアル等作成会議開催

三重県プレススクールマニュアル

【発行】

2020年（令和2年）2月

三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課

〒514-0009 津市羽所町700番地

（アスト津3階 みえ県民交流センター内）

TEL : 059-222-5974

FAX : 059-222-5984

<https://www.pref.mie.lg.jp/TABUNKA/HP/>

E-mail : tabunka@pref.mie.lg.jp

【編集】

公益財団法人三重県国際交流財団（MIEF）

無断複写・転用を禁止します。複写・転用をされる場合は、上記までご連絡ください。

このマニュアルは、一般財団法人自治体国際化協会の助成により作成しています。